



香港中文大学日本研究学科

佐賀大学・中文大学交流計畫

佐賀大学・中文大学交流計畫2017



參加者：陳凱彤
鍾卓霖
吳宇軒
陳沛琳

鄭子軒
馮子軒
唐佩寧
鄭裕熙



活動照片









今年の冬と夏、私は佐賀大学との交流プログラムに参加しました。このプログラムで得たものは私の想像を遥かに超えました。交流プログラムはたったの20日間だったが、私たちの「絆」はこれからもずっと続くと信じています。

最初は去年プログラムに参加した先輩が積極的に勧めて、それに日本語力を磨きたいし、日本人とも仲良くなりたいので、軽い気持ちで応募してみました。佐賀の皆さんが来る前は、期待より不安の方が大きかったです。私は人見知りで、うまく話せるかどうか心配でした。しかし、プログラムが始まってからすぐ、その不安は日本人の優しさのおかげでなくなりました。

貴重な10日間なので、私は時間をできるだけ作って、一番なおもてなしがしたいと思いました。しかし、ガイドとして誰かを案内するのは初めてだし、しかも相手は日本人、正直焦りました。香港の歴史とかちゃんと調べれば、みんなにもっと紹介できたのという後悔もありました。自由時間のプランもその日になってから考えるではなくて、あらかじめ考えた方がいいと思いました。私たちの準備不足でみんなに迷惑をかけました。

一方、日本人の観察力に感心しました。自主課題調査のテーマに沿って、気になったことがあれば、すぐ私たちに聞いてくるのはすごいと思いました。それに、いつも香港と日本の違いを見つけて、私は隣で違う目線で香港を再発見できて、とても新鮮でした。

香港での10日間は本当に充実してて、時間が惜しいと思うくらい楽しかったです。みんなが優しすぎるから、こっちも優しい気持ちになれました。当時他のことでもやもやしている自分がどこかに消えました。今思えば、いろんな気持ちが満ち溢れていた気がします。初対面の時はちょっと気まずかったり、歓迎会の誕生日サプライズで嬉し涙を流されてびっくりしたり、私のパートナーがインフルエンザのせいで休めなければならなくなって悔しかったり、フィールドアスレチックに挑戦してヒヤヒヤしたり、夜話でみんなと距離を縮めて嬉しかったり、空港の別れが悲しかったり。この短時間で、ここまで仲良くなれるのは想像できませんでした。7月が待ち遠しいと思いました。



5ヶ月が経って、やっと佐賀へ出発します。久しぶりに友人と会うのは緊張しますが、みんなが相変わらずな笑顔で私たちを迎えてくれて、ホッとしました。この10日間、佐賀のみんなは常に私たちのことを一番に考えてくれました。私たちが行きたいところや食べたいもの、わがままも全部聞いてくれました。みんなは期末テストがあるのに、授業をサボってまで、私たちと遊んでくれました。多分みんなは無理して、睡眠時間を削ってまで付き合ってくれたと思います。本当に感謝しかないです！楽しかったことが多すぎて、全部書いたらキリがないので、いくつかをピックアップして振り返りたいと思います。

まずは2日目の歓迎会でみんなとの距離を縮めました。店じゃなくて教室で行ったので、遠慮せずにワイワイできるのが良かったです。みんなが鉄板を持参して、材料を買って来て、お好み焼きを作ったり、かき氷を作ったり、楽しかったです。お互いの近況やこの5ヶ月の間で変わったことを話して、あっという間に打ち解けました。



一番楽しかったことといえばやはり4日目の合宿です。神集島は静かで、何もなくて、のんびりできそうです。木に囲まれて、海が見えて、古いお家の前に何匹の猫が気持ちよさそうに寝ています。香港とは大違いで、私は結構ここが気に入りました。暑い中、私たちは山を登って、合宿場に着いた時はもう汗ビショビショです。先生がかき氷を用意してくれました。待ち時間はみんな

でカードゲームしました。「スピードジャングル」というゲームでかーりーとたけしが大接戦、二人とも同じくらい下手です。最後はかーりーが負けました。罰ゲームはこばさんがかーりーに壁ドン、照れてるこばさんが可愛かったです。次は釣りをしました。おっさんたちが釣り方を教えてくれました。待つのはつまらないけど、釣ったときの達成感は大しかったです。合宿所に帰る時、私たちはトラックに乗る機会がありました。ジェ

ットコースターみたいで、ちょっと怖いけど、海が見えて、景色がきれいでした。みんなが「キャーキャー」言っていて、とても楽しかったです！少し休んだら、バーベキューの準備をします。おにぎりを握ったり、野菜を切ったり、みんなとの共同作業が楽しかったです。準備が整ったら、日本人が焼いてくれて、香港人は出来上がった肉をひたすら食べていました。おっさんがサザエをくれて、それを焼いて食べるのが一番美味しかったです！サザエを食べる秘訣も教えてくれました。バーベキューはいつの間にかおっさんの恋愛講座に変わりました。告白の仕方や夫婦円満の秘訣など伝教してくれて、勉強になりました。日付けが変わったら、大部屋の電気を消して、みんなで書いたお祝いのメッセージが入ったホワイトボードを大部屋に押していて、同じ日に誕生日だったまこ、ニコラスとユウキにサプライズをしました。3人それぞれが今年の夢を話しました。最後は全員で雑魚寝しました。

印象が深かったのは6日目の課題調査で呼子に行ったことです。呼子の名物と言えばイカです。萬坊という店で、イカ定食を頼んで、みんなでシェアしました。イカ定食は刺身とイカシュウマイとイカ天ぷらが入っています。刺身を食べ終わったら、残った部分で、天ぷらを作ります。値段は高いけど、すごくおいしかったです！続いては遊覧船で七ツ釜を観ました。七ツ釜の中まで入れて、圧巻でした。そのあとは、ずっと行きたかった棚田に。夏は田んぼに苗が生え



だから、写真みたいに水が鏡になって、夕日を照らすような景色は見えないが、それでも私たちは行ってみたいです。そこは私たちの期待を裏切らなかつたです。夏の景色も最高でした！まるで緑色の海、私を包むようでした。私たちは手すりの上に座って、危ないことを知らずに、いい写真を撮ることだけ夢中になりました。景色は綺麗で、風が気持ち良くて、そばには大切な友達がいる、とても幸せな一日でした！まよ、あやか、ありがとう！

7日目に武雄高校との交流は自分の高校時代を思い出しました。一年生の英語の授業に参加して、香港について紹介しました。そのあと、一人ずつグループに入って、生徒たちと喋りました。電子辞書を持って、説明できないことはすぐ調べられる真面目な子がいたり、自我介绍で3回も自分の名前を言う天然な子がいたり、違う個性の高校生と話せたことは貴重な時間でした。授業が終わったら、生徒が部活の見学を案内してくれました。日本の部活は香港と比べてスポーツの割合が多いです。野球、弓道、柔道と空手部は香港の学校では珍しいです。その部活に見学すると、部員が練習風景を見せてくれました。香港は部活より成績の方が断然重要なので、日本の学校は毎日部活の練習があると聞いて、びっくりしました。部活に一生懸命打ち込む学生を見ると、まさに青春だと感じます。汗を流し、大きな声を出し、日差しの中で走り、大会に向かって練習する姿はキラキラしています。日本の高校生活が羨ましく思いました。



ちと喋りました。電子辞書を持って、説明できないことはすぐ調べられる真面目な子がいたり、自我介绍で3回も自分の名前を言う天然な子がいたり、違う個性の高校生と話せたことは貴重な時間でした。授業が終わったら、生徒が部活の見学を案内してくれました。日本の部活は香港と比べてスポーツの割合が多いです。野球、弓道、柔道と空手部は香港の学校では珍しいです。その部活に見学すると、部員が練習風景を見せてくれました。香港は部活より成績の方が断然重要なので、日本の学校は毎日部活の練習があると聞いて、びっくりしました。部活に一生懸命打ち込む学生を見ると、まさに青春だと感じます。汗を流し、大きな声を出し、日差しの中で走り、大会に向かって練習する姿はキラキラしています。日本の高校生活が羨ましく思いました。

日本の高校生活が羨ましく思いました。



8日目は佐賀大学で真面目に授業を受けました。日本語学と異国文化の授業に参加しました。香港の紹介したり、グループに分かれて出身地や名前について話したり、新しい友達もできました。昼はゆめタウンでプリクラを撮って、買い物しました。疲れた時はみんなとカフェで



おしゃべりして、一緒にのんびりしている時間が好きです。

そして、佐賀ばかばか温泉に行ってきました！やっぱり温泉の力は凄い、疲れが取れるし、癒されるし、かーりーとまよとの仲も深まりました。塩サウナのあとの冷たい水温泉は気持ちよかったです。まよのあの顔は忘れられない！夜はいつも日本人を呼んで、部屋に集

まってゲームと夜話をするのが香港スタイルです。今日は今まで最高人数の10人で恋バナしました。夜だから聞ける質問や言えるエピソードで盛り上がりました。この時間がいつまでも続くといいのにと思いました。

最後の日はみんなと長い時間を一緒に過ごせました。慌てて準備した発表は意外とうまくいきました。終業式の時はまだ終わることが実感できませんでした。私たちが佐賀のみんなへ感謝の気持ちを伝えて、みんなの思いも初めて聞けました。プログラムのイベントに参加したくても参加できない気持ちがよくわかります。香港の時も同じ気持ちだったこ



とを思い出して、切なくなって、涙が止まませんでした。みんなで泣いてるこの風景が懐かしい、香港の時の終業式もこんな感じでした

よね！ランチの後は、ホテルから自転車を借りて、まこと一緒に佐賀大学までゆっくり自転車をこいて、佐賀の風景を目に焼き付きました。佐賀大学の並木通りで自転車に乗るのは、初めて佐賀大学に来てからずっとやりたかったことなので、最後に乗れてよかったです。夜は展望台の頂上にある贅沢なレストランで送別会を行いました。綺麗な夕日を見ながら美味しい和食を食べて、夜景に変わった後にジェスチャーゲームして、みんなからお土産と手紙をもらって、本当に幸せでした！今はやっとお別れの実感が湧いてきました。夜11時から朝5時までカラオケオールしました。かーりーとデュエットしたり、関東語と英語の曲も歌ったり、たけしがソロライブしたり。私はエネルギーがなくなるまで歌って、いつの間にか寝ていました。そして、このプログラムは幕を閉じました。

このプログラムは私にいろんなことをくれました。まず、日本の文化を実際体験できたことです。有田で焼物の絵付け体験、九州陶磁文化館の紹介と日本酒と焼酎の製作工場見学などで佐賀の文化を心から感じました。焼物の繊細な絵付きには心が込めて、メッセージや物語を告げている気がしました。

また、自信を持って日本語をしゃべることができました。以前の私は日本語を話した

びに緊張して、自分が伝えたいことをうまく伝えられなくて、すごく悔しかった記憶があります。この20日間は広東語を忘れてしまうくらい日本語を喋りました。佐賀のみんなは焦らず、私の言いたいことを分かろうとしてくれました。そのおかげで、私はだんだん自信を取り戻しました。プログラムが終わった後の日本旅も、地元の人や他の観光客に話しかけたり、仲良くなれました。偶然な出会いの中で、日本人の優しさと暖かさを感じました。

そして、思いやりの大切さを知りました。香港人は結構自我中心っていうか、気使いがあまりできません。それに対して、日本人はいつも気を使って、常に私たちのことを一番に考えてくれました。私はその思いやりにいつも「ありがとう」と感謝を伝えるばかりで、恩返しがしたいです。思いやりは、人と人の関係をより深めます。私も人に思いやることができる人になれるように頑張ります。

最後、何より大切なのは仲間との「絆」でした。私たちは国籍、言葉、趣味、文化など違うことだらけですが、奇跡のように、かけがえのない友達になりました。忘れられない思い出が友情の証です。今までお世話になりました。本当にありがとうございます。「出会いがあれば、別れは必ず来る。」でも、この別れは永遠じゃないです。来年に日本へ留学する時、また会いに行きます！もし誰かが香港へ旅行に来たら、私はいつでも案内します！

この先、私は時々2017年の冬と夏のことを思い出すかもしれません。その時、私はきっとこの思い出に勇気づけられる気がします。仲間がいるから、きっと大丈夫だって…



Short Summary

This year, I joined a short exchange program with Saga University. Before it starts, I wish to accomplish several goals through this program, in fact I found that things I gained in this program have far exceeded what I expected. Although this program only lasted for 20 days, I believe our friendship will last forever!

The program is separated into two parts. First, we had to guide our 10 Japanese partners in February when they came to Hong Kong. It was the first time for all of them travelling to Hong Kong. They were curious to everything here. I appreciate their keen observation which they don't hesitate to ask us about things they found different from Japan. However, I didn't have any experience to guide foreigners before and my knowledge of Hong Kong history was inadequate. I should do more research and preparation so I could introduce more about Hong Kong to my buddies. Nevertheless, these 10 days were really fruitful and I had different feelings throughout these days. A little embarrassing when meeting each other in the airport, frustrating when my buddy got influenza and cannot join other activities, exciting when climbing rope net or having nighttime deep talk with the Japanese and sorrowful when saying goodbye.

After 5 months, it was our turn to visit them in Saga. In this 10 days, although it was their final examination period, they always think of us in the first priority and try their best to accompany us. I have to express my wholehearted thanks to my friends. Here, I would like to pick up some unforgettable memories in this 10 days.

The most memorable activity was the camp in Kashiwajima. It was a rural island without tall buildings, strong lights and undesirable noise. Although it maybe inconvenience, I love the scenery, the quiet environment and the cats sleeping comfortably outside the house. We did things that we can rarely did in Hong Kong, for examples fishing, barbequing and sitting on the back of a truck climbing up a slope. Every moments spending with the Japanese friends were delighted and interesting. At 12:00 am, we celebrated the birthday of 3 friends, it was a miracle or maybe a fate that their birthday is on the same day, and we were gathering together at this moment!

The day visiting Takeo High School reminded me of my high school memories. Despite I had joined clubs at that time, Hong Kong emphasize study more than clubs, thus I didn't have chance to throw myself into practicing sports like Japanese students did. I saw them sweating, shouting and

shinning in the playground. I wish I could have such an enthusiastic youth time!

I gained a lot of things from this program. First of all, I had a first-hand experience of learning the Saga culture, such as drawing the Arita pottery and visiting the Kyushu Pottery Museum. It was a good experience to learn Japanese culture and history beyond our textbooks. Next, I built up my confident of speaking Japanese. Although I learnt Japanese for a long time, I seldom have chance to practice speaking skills. Hence, I couldn't convey my message easily. However, my Japanese partner listen to my words patiently and try to understand. Because of this, I had courage to speak more. In addition, I learnt the importance of being considerate. The Japanese always think about others' feeling before taking actions. Their consideration shortened the distance between people. I want to be a considerate person too. Last but not least, I met irreplaceable friends. I am grateful for this encounter and our friendship, despite we have so many things different from each other. I will definitely visit you guys again in the near future!

Cheng Tsz Hin



すべては先輩たちの一言からだった。中文大学に入学早々、「佐賀プログラムは面白いよ」と先輩たちに勧められて、参加しようと思いはじめた。

従来、このプログラムは日本研究学科専攻の学生しか参加できないが、今年はなかなか参加者が集まってこないのので、ほかの専攻の学生にも参加してもらった。このおかげで、日本人の友達だけでなく、ほかの専攻の学生の友達もできた。

香港での十日間は香港国際空港から始まった。佐賀大生たちが来る一週間前にブリーフィングセッションがあって、その時に初めて佐賀大学の学生たちと会ったが、簡単なあいさつや自己紹介しかできず、長く話せることができなかった。佐賀大生が来る当日はとても緊張していた。なぜかというところから生で初対面しなければならないからだ。共通している趣味や話題があるかどうか全然わからなくて、うまく話し合えるかどうかとても心配していた。しかし、佐賀大生たちが到着して、意外と自己紹介やパートナー分けが順調にできて、バスに乗ったらすぐさりげなく話し合い始めた。朝早く起きて、それから飛行機で五時間ほど香港まで飛んできて、佐賀大生のみんながだいぶ疲れているだろうと思い、空港から大学まで移動する間は休憩させようと思ったが、見たことのない景色や知らないことがいっぱいあるからか、休む暇もなく佐賀大生たちはあれこれについて聞いてきた。私たちが喜んで限りある日本語で答えた。

私は授業や用事の都合で、スケジュール通りに香港のあちこちまで付いていけなかったが、他のメンバーの協力で、私がいないうちになんとなくパートナーの世話や香港の紹介をしてくれていた。そして、他のメンバーも都合で来られなかったりするときも協力した。中文大生のみみんなも忙しい中だが、こういう助け合いで、香港での十日間は順調に進むことができたのではないかと思う。

初日に佐賀大生たちが香港へ移動し、二日目には開講式や歓迎会を行った。開講式に去年佐賀プログラムに参加した先輩たちに来ていただいて、去年の経験や出来事について聞かせていただいた。開講式が終わった後、みんなでキャンパスツアーに行った。中文大学は佐賀大学よりずっと大きくて、見所などいっぱいあって、そして山頂から麓までキャンパスが位置しているので、結構時間がかかる見込みだったが、中文大学名物のスクールバスのおかげでだいぶの見所に行くことができた。



三日目と四日目は授業で昼間のスケジュールは付いていけなかったが、夜にはモンコクやヤウマーテイへ晩御飯を食べに連れて行った。三日目の夜には香港の吉野家に連れて行った。そこで全員で吉野家の鍋料理を食べた。香港にしかないメニューなので、佐賀大のみんなが驚いた。それだけでなく、香港の吉野家の営業モードは日本のと違って、女の子でも安心して一人で来ることができると言われた。四日目の夜には煲仔飯という香港独特の料理を食べさせた。晩御飯の後モンコクにある有名な商店街にも連れて行った。そこでは多くのお土産が売っているが、気に入ったものがないかみんなは何も買わず大学へ戻った。その晩は香港名物のミニバスで大学まで帰った。スピードが速すぎて乱暴な運転し方で、佐賀大生のみんなが驚いていたが、「こう見ても意外と安全だよ」と私たちが説明して、なんとなく安心して、短時間に大学まで戻った。日本では交通機関はこんなにスピードを上げたり、乱暴に運転したりすることは絶対にないが、ミニバスに乗ることは楽しかったと佐賀大生たちが語った。

五日目は授業で午前中のスケジュールは付いていけなかったが、昼ご飯はレストランで飲茶をした。佐賀大生たちが最も訳が分からないことは食事の前に食具を洗うことと指でテーブルを叩くことだった。午後には上水にある中学校に中学生たちと交流しに行った。学校に入ると先生と学生たちが歓迎していた。それから中学生と大学生を平均に分けてグループで交流を始めた。私は最初に面白半分で日本人の真似をしていたが、中学生たちがほんとにわからなかったらすぐ広東語で通訳をした。夜はみんながバーベキューをしにタイポウへ行った。香港のバーベキューのし方は日本のと違うが、香港のやり方も楽しいなと佐賀大生たちが言った。



六日目にビクトリアピークへ夜景を見に行ったら、愛知県から旅行に来たおばさんたちと遭遇し、このプログラムが無事終われるように、そして交流ができるように励ましてくれて、すごくうれしかった。



七日目にはノアの箱舟をテーマにしたテーマパークに行ったが、そこで遊ぶことだけでなく、いろいろな訓練を受け、タスクをクリアした。様々なイベントの中で最も記憶に残るのはクライミングアトラクションに上ることだ。これはなぜかという、中文大生と佐賀大生がパートナー同士で一緒に最上階に上らないといけなかったからだ。最初にそのクライミングアトラクションを見て、絶対に私が登れるレベルじゃないと強く思っていたが、みんなが下で応援するほか、パートナーのたけしくんが手伝ってくれていて、最後はようやく最上階に上ることができた。その達成感はかけがえないものだ。



八日目には2チームに分かれて、佐賀大生がみんなそれぞれの自主課題調査のテーマを目標として調査に行った。私のパートナーの調査テーマは香港の食文化なので、飲茶に連れて行った。同行している組のみんなも連れて行った。香港独特の食文化を教えたくて感じてもらいたくて、伝統的なレストランへ連れて行った。普通のレストランと何が違うかという、点心は注文するのではなく、自ら取りにいかないといけないということだ。伝統的な飲茶のし方を体感できて、佐賀大生のみんなも喜んだ。

九日目には修了式があったが、私は都合で行けなくなったが、代わりに私の感想を込めた映像を修了式に放送してもらった。送別会でまた会えて、そして修了式に残したメッセージがちゃんとみんなの心まで届いたことを知ってすごくうれしかった。



十日目、佐賀大生のみんが朝早く大学から出発した。授業で空港まで送れないが、出発の前にちょっとしたお土産を送ることができて、そしてまた七月に会おうと伝えた。佐賀大生のみんがちょっと悲しくなったけど、また七月に会えると信じて楽しみにしていた。

そして、七月がとうとう訪れ、今度は私たちが佐賀に行く番だ。前には旅行で何度も日本に行ったことがあるけれども、佐賀県に行くのは初めてだった。最初は結構田舎だと聞いたけど、実際に行ってみたら、意外と都市化が進んでいると深く感じられる。特に佐賀市や武雄や唐津では田舎の感じがほとんどしない。

出発の前に九州が台風に襲われていると聞いたので、佐賀に行けるかどうかとても心配だった。幸い空の便にはキャンセルや遅延などがなく、スケジュール通りに福岡まで飛んでいけて、台風や豪雨の中でも無事ホテルまで移動できた。そして、三日目からいい天気が続き、無事プログラムが終わることができた。

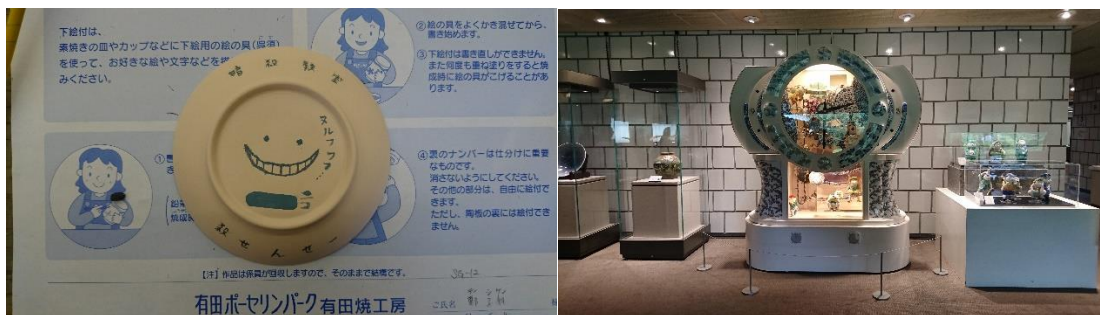


最初の日には香港から出発し、夜十時ぐらいに福岡空港に着いて、そこで佐賀大学の吉川先生が迎えに来た。バスで佐賀市まで移動する間に豪雨が降ってきてしまった。ホテルに着いたら、みんなが慌てて荷物を持ってホテルに駆け込んだ。佐賀に来られてみんながワクワクしていたが、結局みんなはもう疲れて果てて、部屋に入ったら何もせず朝まで寝た。



二日目は佐賀大学で開講式があって、初めて佐賀大学に行った。佐賀では電車の路線が少なく、主に自転車で市内を移動しているので、バスの本数も意外と少ない。そのため、私たちは朝早く起きて、バスターミナルでバスを待たないといけなかった。開講式の後には佐賀市内での散策だった。佐賀大生のみんが県庁の展望ホールに連れて行ってくれた。そこからは佐賀市全域の景色を眺められる絶好のところだ。田んぼや住宅、ビルなどが軒並みで並んでいる。高いビルがほとんどなくて遠くまで見えて、香港には決してない景色だ。夜は大学に戻って、歓迎会を行った。みんなで楽しく話し合ったり、お好み焼きやかき氷を一緒に作ったりしていた。

三日目は佐賀県の西に位置した有田に行った。そこで有名な酒や有田焼の作り方を拝見させていただいて、そしてポーセリンパークの近くにある工場で有田焼の絵付け体験もさせていただいた。体験が終わった後、みんなで九州陶磁文化館に見学に行った。そこで有田焼の歴史についていろいろ勉強になった。最も印象に残ったものは文化館の中に展示してある陶磁で作ったでかい時計だった。その時計のからくりは三十分毎に動いて、表だけでなく、中身にある人形もすべて陶磁で作ったことに感動した。



四日目から五日目の朝は佐賀大生と中文大生全員そろって神集島へ合宿に行った。このスケジュールは今年から始まったので、少しモルモットになった気分はしたが、意外と楽しかったので、思い存分楽しんでた。神集島で一緒に釣りをして、夜には釣ったものを食材として、みんなでバーベキューをした。それに釣りを手伝って、バーベキューの時にサザエを追加して、夜中まで人生の経験を話してくれて、島にいる間にずっとおもてなししてくださった西本さんとみっちゃんには感謝している。しかし、合宿のところはさすがに森に囲まれるだけあって、窓を覆うほどたくさん蝉がいて、驚いていた。寝る前に佐賀大生の男子たちと一緒に部屋に入ってしまった蝉を追い払っていた。ものすごい運動量で疲れていたが、とても楽しくて、このおかげでその晩はよく眠ることができた。



翌日の朝は早く起きて、みんなで唐津へ見学に行った。しかし、あいにく私のグループは唐津で自主課題調査をしないとイケないため、みんなと別れて別行動になった。唐津で佐賀のアニメ聖地について調査をした。唐津市内のいろいろなところに行った。グループメンバーとパートナーと一緒に写真を撮ったり、見学したりして、大変勉強になったほか、好きなアニメのロケ地に行けて、とてもうれしかった。夜には晩御飯の店で佐賀大生たちが神集島にできなかったちゃんとした誕生日パーティーを行って、おいしい誕生日ケーキも食べさせてくださった。



六日目は自主課題調査の日なので、みんながまた2グループになって、それぞれの調査テーマについて調査していた。私のグループの調査はすでに終わったので、Donaldのグループと組んで一緒に行動するようになった。それで私たちは佐賀市市民活動プラザの秋山さんに佐賀の方言についてインタビューさせていただいた。「きゅうのしゃあはきゃあのしゅう（今日のおかずは貝の汁）」。おかげで、面白い佐賀の方言についていろいろ勉強させていただいて、そして記事にも載せてくださって、ありがとうございます。 <http://tumulucc.jp/archives/1651>



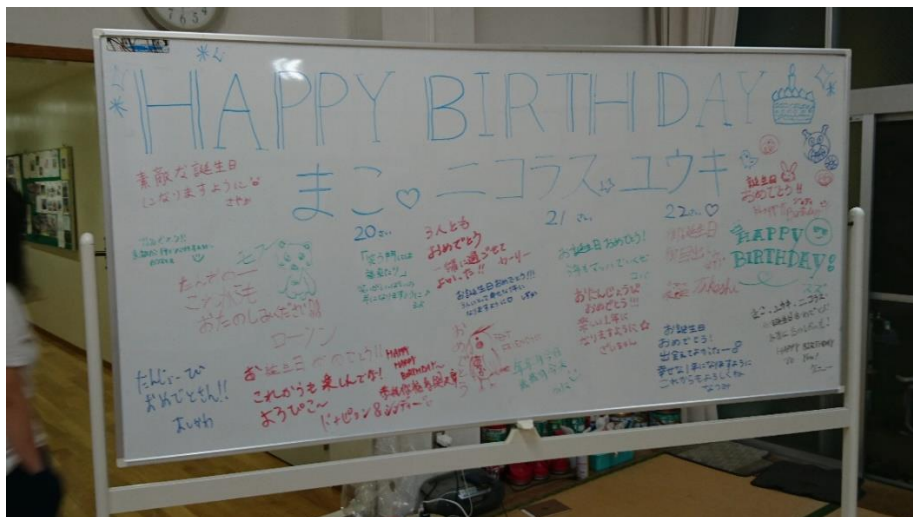
七日目は祐徳稲荷神社と鹿島の干潟に見学に行った。祐徳稲荷神社は山を沿って建てたので、中文大学のように見えて、ちょっと親切な感じをした。時間のため神社の山の奥までは行けなかったが、吉のおみくじを引けてうれしかった。そして鹿島にある道の駅に行って、昼ご飯と干潟の見学をした。干潟を見に行った時は丁度潮が引いて

いるところなので、波などがなく、水が鏡のようになってきれいな景色が見えて、すごく感動した。午後は武雄にある高校に見学に行った。その高校の広さは香港に絶対にはないほどで、中文大生のみんなが驚きつつ、羨ましく思った。私たちは高校に着いてすぐ高校生たちと交流と香港の紹介をした。しかし、英語で話さなければならないので、とても大変だった。交流の後で高校生たちに部活や学校の見学も連れてくださった。アニメやドラマにしか見えない日本の学園生活が目の前に生で見られて、とてもうれしかった。



八日目と九日目は佐賀大学で授業を受けて、ほかの大学生たちと交流と彼らに香港の紹介や自主課題調査の発表をした。佐賀大生のみんなは外国人が日本語でペラペラしゃべるのを見てかなり驚いた。九日目の夜は県庁の展望ホールにあるレストランで送別会を行ってくださった。みんながお土産を交換したり、ゲームで遊んだり、このプログラムに対しての感想を言ったりして、悲しみつつも楽しんでた。送別会の後、みんなでカラオケに行き、最後の時間を大事にして、朝まで歌っていた。

そして、始めがあれば、終わりもある。最後の日みんなが離れたくなくても、それぞれの目的地へ出発し、佐賀プログラムも無事終わることができた。



佐賀プログラムの中に一番思い出になったことは、みんなが誕生日を祝ってくれたことだ。その日は神集島で合宿した日だった。そして、私のほかに、なんと佐賀大生のマコさんと中文大生のユーキさんが同日に誕生日を迎えた。朝からいろんなことをして、夜にはさすがにちゃんとした誕生日パーティーはできなかったが、私を含めて三人がそれぞれの願い事や目標を言って、必ず叶うようにみんなが祝福してくれることにとても感動していた。みんなありがとう！

私はいつも旅行に日本へ行っているが、日本の文化については知らないことはまだまだ

たくさんあるということは、このプログラムを通していろいろ勉強したとしても、まだ深く思っている。佐賀大生のみんなも中文大生のみんなもそれぞれ違う国違う文化の中で育ってきたが、互いに理解し合って、互いに勉強し合って、文化の違いによる衝突や喧嘩になることが一切なかったことにとっても感動した。二十日間は本当にあっという間だったけれども、勉強したことも、経験になったこともたくさんできた。これからも佐賀プログラムを続けて、このプログラムを通して佐賀県と香港の交流を深め、両方の人々がより仲良くなることができたらいいなと思っている。

Short Summary:

Saga exchange programme is a short-term exchange programme held by Saga university and Chinese university of Hong Kong and the programme last for twenty days. For the first ten days, students from Saga University will come to Hong Kong and students from CUHK have to bring them to different places in Hong Kong and introduce things about Hong Kong to them. For the other ten days, students from CUHK will go to Saga Prefecture and students from Saga university will bring us to different places in Saga Prefecture and introduce things about Saga Prefecture and Japan to us.

In the first ten days, we have brought Saga university students to different places in Hong Kong.

For example, we made a campus tour for them inside CUHK. Since CUHK has a big campus, we used a few hours to take them go around the main viewpoints. For the transportation inside campus, we mainly got to the viewpoints on foot. But, we have taken them to try the most famous transportation in CUHK which is the school bus. Since the school bus run over the mountain in a high speed, it shakes all the time. They think that school bus in CUHK is a bit dangerous but exciting as roller coaster.

Time flies from February to July and it's our term to go to Saga Prefecture!

Although I have travelled to Japan for several times, this is the first time that I travel to Saga Prefecture. My first impression about Saga Prefecture is that Saga is a rural area which is full of field and most of the people in Saga are old farmers. However, when I first stepped in Saga Prefecture, it has changed my mind. Saga Prefecture, especially Saga city, Takeo, Karatsu, etc., is developing and quite a lot of cities are urbanized.

In ten days, we have been to different parts of the Saga Prefecture.

For example, we have been to the western part of Saga Prefecture, Arita. We visited a factory which produce alcoholic beverage like beer and Japanese sake. Then, we participated a workshop that we can draw picture on the Aritayaki (a kind of Japanese china). It takes around 1 month to be finished and I would like to see my original Aritayaki as soon as possible.

The most memorable scene in the whole programme is that all of the members celebrate birthday for me. There is a thing that surprised me is that there are two more members of us were born on the same day and it had become a big birthday party on that day. That is the first time that so many people celebrating birthday for me and I was extremely excited.

After joining this exchange programme, I have learnt much about the Saga Prefecture and Japanese culture. Besides, both Saga university students and CUHK students have become good friends also. I won't forget them and the experience in Saga. I hope that the Saga exchange programme can continue to enhance the relationship between Saga Prefecture and Hong Kong, and also Saga citizens and Hong Kong citizens.

Chan Hoi Tung

2017年7月5日 - 小雨

Day1

暑假過了一半，現在可以與幾個月沒見的朋友們去遊學，心中是滿滿的期待。今天大家到了酒店後就一起去附近的一間24小時經營的超級市場買東西，夜晚的超市有特別的折扣，食物都十分便宜～跟著我們就一起到酒店房間一邊吃東西，一邊玩遊戲，過了愉快的第一夜。

2017年7月6日 - 大雨

Day2

開講式

巴士到了佐賀大學站，我便看見了我的搭檔－M a y a！這幾個月我們只能用L i n e溝通，終於能與她見面我特別感動。開講式中終於可以再與所有佐賀大學生見面，和朋友們再會的心情是多麼的高興～

參觀佐賀周邊與大學

我們在學校飯堂用膳後便開始參觀之旅，從佐賀大學的商店和圖書館，到佐賀周邊的神社、展望台及以熱氣球為題的商店都參觀了一遍。特別在神社中，我們一起抽了戀愛御守和餵了神社的鴿子～

趣事：快到七夕時大學周圍會放上假竹讓人把願望寫在紙上掛上。我們發現了不少有趣的願望，例如有三張有關要嫁給石油王和成為石油王的紙條（笑）。

歡迎會

歡迎會在大學的一間房間進行，我們進去時就看見佐賀大學的朋友們在忙著準備我們的晚餐。我們一起享用了お好み焼き和自製かき氷，並一同照相聊天，結束了第二天的行程。

2017年7月7日 - 小雨

Day3

遲到

昨晚跟朋友們玩太過了，導致今早我和P o l l y都睡過頭，要遲到了！我們那天懷著滿滿的罪惡感趕快梳洗出門。

參觀有田大學與酒廠

有田大學是一所教授燒物知識及培訓有關人才的專門學校，一位大學教授帶著我們參觀校內的各種特別設施，當中還有一部可以扭出學生製造的陶瓷公仔的扭蛋機！接著，我們再去參觀了一間酒廠，裡面的工作人員都在製作燒酒和米酒，整個工廠都瀰漫著米香

～

有田燒體驗

我們在一所有田燒工作坊製作我們自己自由設計的有田燒，先用鉛筆在碟上畫上草稿，然後再用特別的顏料畫在草稿上，顏料經過火燒後就會變成漂亮的深藍色。工作坊會把完成品送到香港，在大約九月送到大學！

Y o u m e T o w n

然後我們有自由時間可以跟佐賀大學的朋友一起去玩，我們選擇到Y o u m e T o w n 逛街！那裡剛好碰上夏季大減價時期，文具店、服裝連鎖店等都有十分有吸引力的折扣～我們女孩子瘋狂購物了一遍！然後我們再到附近的卡拉OK唱歌～

2017年7月8日 - 陰天

Day4

神集島合宿

終於到了期待已久的合宿！！一班朋友到小島山上的營地合宿真是青春啊～我們把行李放在小卡車上然後一起登山，一邊聊天，一邊照相，在大自然中享受了十分開心的時間～營地有一個大房間，我們十多個人都會一起睡在那個房間裡～

釣魚體驗

下午我們在小碼頭釣魚！這是我的第二次釣魚體驗，但上一次我沒有釣到一條，這次我決定要雪恥！當地的大叔們都很熱情，他們都走到我們身邊教導釣魚的要訣～不久我就成功釣到一條了！這次的經驗真是讓我很有成就感！

燒烤大會

夜晚我們大家在營地的空地進行燒烤大會！在碼頭認識的大叔們也帶上他們抓的海螺跟我們一起吃，一邊吃，一邊談心，各種戀愛相談和笑談人生～過了一段浪漫的時光。

生日會

原來我們參加者中有三個人在同一天生日～我們一個一個的偷偷走進一個小房間裡把祝福的話語寫在白板上，然後等待到了凌晨0時就把這驚喜搬出～三個壽星都喜出望外！驚喜大成功！！大家都高興地唱著生日歌和拍照～

2017年7月9日 - 大雨

Day5

神集島合宿第二日

合宿的第二天稍有大雨，早上我一起床就看見其他人坐成一排的在雷聲中看電視。然後我們就準備離營，並與大叔們告別。大家都對這美麗的小島十分喜愛，因此都依依不捨。

參觀唐津城

接著我們就去參觀著名的唐津城，但是不幸地，城內正在進行修築，因此不能進城內參觀。但是城外也同樣可以一睹唐津城的宏偉，亦能看見在高處看下去的美麗景色！大家

都拍了很多照片～

生日晚飯與唱卡拉OK

晚上的自由時間我們集合在大學附近的一間餐廳吃飯，慶祝三個壽星的生日～餐廳的飯十分好吃，侍應也十分友好，主動為我們準備蛋糕的裝飾和幫我們照相。然後我們一同到附近的卡拉OK唱歌，大家載歌載舞，熱熱鬧鬧地過了一晚！

2017年7月10日 - 晴

Day6

再遊唐津

今天原本是供我們組成小隊去收集報告資料的日子，但是我們組決定趁有一天的自由時間到些漂亮的地方走走。於是我們帶著兩個日本朋友再遊唐津。我們先到一間著名的餐廳吃呼子魷魚，然後就乘搭觀光船參觀呼子景色，期間船還進了洞穴，好像探險一樣。

照相

接著我們便到了一個拍攝及戀人聖地，那裡的綠田一層一層的互相依靠著，近雨季時田上還會鋪上一層層水影，當夕陽照在田上，就會形成一幅橙黃色的美麗圖畫。但我們無緣夕陽之景，因為從呼子回到佐賀需要一段時間，所以我們只好觀賞烈陽下的景致而已。儘管如此，景色仍然是十分壯麗。我們不停地拍照，擺出不同姿勢一同拍～留下了青春的痕跡！

2017年7月11日 - 小雨

Day7

鹿島的稻荷神社

早上我們到達鹿島參觀，第一站就是稻荷神社，精神抖擻的我們竟然提議在熱辣辣的陽光下走上山看風景。想不到山的崎嶇程度超乎我們想像，石頭凌亂而且滑滑的，加上太陽實在是太猛烈，我們完成路程後都疲倦不堪。幸好山上景色的美值得我們努力走上去～

天空之鏡

在中途的休息站，我們意外發現了一個漂亮的泥灘。為甚麼是意外呢？因為我們在水族館上看下去的時候，泥灘的顏色灰暗，並不好看。但是當我們走下去，真正走到泥灘旁邊的時候，就發現原來它是一面天空之鏡！平靜的水面映照著藍天，十分美麗！

高校見學

我們第一次的發表就在鹿島的一所高校，我們預先準備了一個關於日本研究學系、中文大學及香港的發表，準備在高中學生的英語課堂上進行發表和交流。第一次踏進高中的校門心情特別興奮！平時只能在電視劇中看見日本學生學習的地方，但這一次竟然能夠親自到課堂上參與！發表來的很順利～雖然日本的學生英語程度沒有香港學生好，但是他們十分努力交流，而且也很熱情，樂意向我們分享自己的事情。

發表完畢後，我們就到學校的部活到處參觀～那裡有不少香港學校所沒有的社團，例如：

劍道部、弓道部、茶道部及書道部等等，這些部的部活對我們而言十分新奇～參觀期間學生都熱情地跟我們介紹自己部的特色，甚至為我們做示範或讓我們看看他們的作品！

2017年7月12日 - 晴

Day8

佐賀大學分享會

我們的第二個發報在佐賀大學的一個異國文化課上進行，跟高校的發報有異，我們要以日語進行演講，所以我們有加倍的緊張。但是大學生們都很友善，在討論的時候發現，原來也有一些佐賀學生對我們香港有認識，這叫我們驚訝，因為聽聞佐賀人很少出國旅遊，所以遇上如此博學的學生我們都感到挺驚喜！

自由時間－再遊Y o u m e T o w n和溫泉

發表結束後就是我們的自由時間，我們在相約去購物，期間還照了日本著名的大頭照，留下了旅行的紀念～然後我們集合去溫泉，這幾天的疲倦都在溫泉中一掃而空，女生們赤裸相見，談得特別暢快～舒舒服服的享受了香港享受不到的溫泉後，我們就到了今早一位女大學生介紹的麵店中解決我們的晚餐～

夜話

這一晚，我們集合了絕大部分的朋友到房間裡談天，我們談了愛情的話題，談了旅行的趣事，談了未來的計劃～過了溫馨的一夜～

2017年7月13日 - 晴

Day9

發表會

最後的戰場就是報告發表會，我們會把自己的研究發表在吉川老師的課上，並且也是以日語的方式演說，大家有驚無險地把自己準備挺久的報告都發表完畢後，都紛紛鬆了口氣～

自由時間－踏單車和遊商店

最後一天的下午也是自由時間，我們決定踏著單車遊佐賀周邊，今天的天氣很好，有陽光也有清風，十分適合踏單車！我們也到了一間商店中購物，裡面有動漫產品、書籍、漫畫、二手衣服、遊戲機、皮夾、雜貨等多樣東西，而且都很便宜！我們盡情地買了一袋又一袋，滿載而歸～

送別會

送別會在第二天的展望台上的一間餐廳中舉行，裡面看著夕陽慢慢變成一閃一閃的夜色，品嚐著美味的食物，悠閒地聊著天，玩著遊戲～過了最後一段快樂又溫馨的時光。最後我們一起看了在展望台玻璃窗上投影的美麗影片，今晚就在五光十色的美麗投影畫面中結束了。

Short Summary:

This Saga Exchange Program has provided numerous precious gifts to the first year of my University life. In those days, things other than improving language skills were given to me and in which these "gifts" can be kept forever. They are "memories" and "friendship".

In the ten days of the Hong Kong part of the program, the schedule was unfortunately aligned with the mid-term examination period. Thus, I was not always available to join the group. Regretting that, I decided to pay more effort in the Saga part of the program. The schedule was enjoying and valuable, including tours in Saga University and temples, Arita University, Secondary school, Kashima, and camping in an island. Through those twelve days, I learned a lot about the unique culture and some extra history and humanity of this beautiful small place. For me, the most memorable part throughout this trip is the camping in Kashiwa island.

In all those camps I had in my life is not as "seishun" as this one. For the image of "合宿" in me was obtained only from manga, anime and TV dramas, but I have never thought of joining one myself. We woke up early and went there via a small boat. The weather that day was fabulous, thus we stayed on the upper deck and enjoyed and sunshine and ocean breezes with friends. That was a great start off for this trip. Then, we walked up the hill and got to our campsite, there was a large room with Tatami. We were going to be sleeping in there all together! Afterwards, we went fishing under the orange sun of dawn. Unlike Hong Kong's camping, it was a rather quiet and static activity, but I enjoyed the peaceful ambience of those hours a lot, when we can chat with friends and enjoy the beautiful view of dawn together. This moment is the most precious of them all. After that, we ride the back side of a small truck to go uphill and prepare for the barbeque! The locals joined us at night and we eat together thus talked about love and life. It was a fun and fruitful night and we made it late till midnight when we finally went to beds and slept.

The camp was so enjoyable thus it strengthens the bond between all of us. Talking about bonding, I would love to note down the most important highlight of this exchange program, the friendship between us. The participants from Saga are my first group of Japanese friends. At first I was afraid that after few months of separating, we cannot communicate well like how we did in the Hong Kong part of the program. However, when we met each other, there was no such thing called "gap". Every moment in this trip has been the building blocks of our friendship and which it is going to last forever. I am especially glad to have Maya as my partner in this program. She is a sweet girl and she helped me a lot throughout the whole program. I can never enjoy my trip as much as I did without her, thus I would love to give my greatest gratitude to her.

參加交流活動前，對活動有以下期望：

1. 鍛鍊日語
2. 結交日本朋友
3. 更貼地認識日本

完成十日的交流後，所得所獲遠遠超出期望中，是人生一段美好、永不忘記的珍貴回憶。為了這個交流活動，犧牲了兼職、學業、莊務，然而這一切都是值得的，亦不後悔作出如此決定。

還記得當初在香港機場，第一次遇到日本同學們，心情是極為緊張。一來自身日文水平奇差，害怕不能與他們溝通，令他們失望；二來常常聽日研老師說日本人極易得罪，因為日本人比較含蓄；三來自身亦比較內向及被動，又頗為慢熱，與陌生人聊天會感到緊張及不安。基於以上種種思量，令我對交流活動感到害怕及逃避。於交流的初期，常常都怯於日本人交流，害怕出醜。幸好日本朋友都十分友善，不斷鼓勵我說着半咸不淡的日語，又教導我一些時下日本年輕人常說的流行語，當我詞不達意時，又耐心地聆聽及嘗試理解、推敲，最終都明白我想表達的內容。

「多謝你，日本的大家。」

他們的溫柔，完全推翻之前我對日本人的最初印象。當我說錯話時，他們會溫柔地指正我。還記得在尖沙咀的時候，我指着一個人說着「あれ」時，他們都會指正我這樣是不禮貌，應該說「あのひと」，感謝他們耐心地聽着我那奇怪的日語同時，亦會改正我的日文，令我日文水平提升了不少。

同時亦因為語言的隔閡，令我更是下定決心要好好學習日語。同行的朋友日語能力都十分不錯，當見到他們能自如地以日語與日本人溝通時，心裏總是痛恨着自己為什麼自己不早一點學習日語，如果我的日語水平能高一點的話，定能聊得更是痛快。如此的無力感亦會是我學習日語的推動力，決不能讓遺憾再次重演。於未來，定要操着流利的日文和他們痛快地談天說地，說個痛快。

交流計劃中的日本朋友十分照顧及體諒我們，我們才得以在佐賀盡情感受當地的文化。不斷帶我們做一些日本大學生會做的事，如逛當地的 YOUME 商場、唱卡拉 OK 等，樂而忘返。不只是遊玩，大家更會在一些認真的話題上討論，如家庭、學習、戀愛等，縱然我的日文水平較差，往往只是推理出他們想表達的意思，但亦能感受到他們的煩惱及困境。我們常常羨慕日本學生的生活，然而他們需要面對的問題不比香港學生少，甚至有部分日本人羨慕香港人十分自由，城外的人想衝進去，城裡的人想逃出來，互相羨慕着。所以與其無意義地羨慕着，倒不如珍惜現今所擁有的人和事，為保護重要的事物、為追逐心中的夢想、為不讓未來的自己後悔，努力地活下去。

雖然言語不通成為溝通的障礙，但卻不能阻止我們結為朋友，因為感情、笑容都能夠拉近彼此的距離。除了在活動中近乎日日見面的交流夥伴外，在旅途中所認識的人們亦是對我十分重要，如在交流認識的高中生、燒陶瓷的大叔、賣水果的孀孀等，只有短短地閒聊數句，甚至於往後的人生中再沒有重遇的機會，彼此成為彼此人生中的過客，但如此的經歷更令我感受到日本茶道中的一句話：「一期一會」，一生只中只有一次相遇的機會，故此更需要好好珍惜見面的機會，充分享受當下相遇的時光，成為一生難忘的回憶。

人在外國，羞恥心及包袱比較少，膽子自然比較大，會主動去結交不同國家的朋友，與

他們搭話，閒聊。與他們交談的過程中，了解到世界是如此的大，自身是何其渺小，不值一提。參加交流前，我在香港從未曾嘗試主動和陌生人閒聊，回港後我放下羞恥心不斷嘗試，發現大部分人們都十分友善，他們都十分樂意分享，我覺得這是交流計劃令我自身的一大成長，更勇敢表達自身的想法，跳出自己的舒適圈，擴闊眼界。

除了在日本結交到不少朋友外，亦遇上了不少有趣的事和物，值得一記。最為印象深刻的事情自然是神集島合宿！自小看日劇、動漫等主角們常常會參加合宿活動，他們往往與朋友玩得不亦樂乎，故此一直對合宿有一種期待。在島上，我們難得可以逃離城市，在大自然包圍下短住一天。我們合宿的第一個活動是釣魚。這是我第一次嘗試釣魚，亦是第一次如此近距離見證生命的流逝。一分鐘前，一條還在海中暢遊的小魚，轉眼就死在魚勾上。縱然魚勾已經完全穿過魚身，魚兒逃不過死亡的事實，但仍然不斷抖動身體，在死前用盡全身的氣力嘗試逃走。反觀我們人類呢？只懂得不斷逃避，遇到困難就輕言放棄，只會做容易成功的事。我們擁有崇高的智慧，但意志力卻比不上一條魚毛。

撇開沉重的話題，談一談大自然之美。晚上大伙兒一起睡的大房間和戶外僅是一門之隔。夏蟬被房間的燈光吸引伏在門上，並發出「知了！知了」的叫聲。間中有幾隻蟬會誤闖進房間內，正當我們香港學生大呼小叫，四處逃跑的時候，日本學生卻淡定地捉起他們，放他們回樹林裏。這又是一大新奇的文化差異！香港人看到小昆蟲，會毫不猶豫將牠打死，而日本人卻會將他們放生。大家對待大自然不同的態度，到底香港人有曾尊重過大自然嗎？我們大部分一生都生活在石屎森林中，接觸大自然的機會很少。食物張口就吃，衣服伸手就穿，更甚為了發展，欲開發郊野公園，為了更多居住用地，竟打算廢棄了水塘。通通的想法只是為了人類的自私、慾望。反觀日本的教育讓孩子感謝大自然，如日本人進食前會說的いただきます，當中含有了感謝的意思，不單是感謝媽媽的煮食，更是感激農夫的辛勤耕作，大自然的供給，意味頗為深遠。香港人，我們甚至連母親為我們煮食的辛勞亦沒有半句感謝，我們需要好好學習對世間一切事物感恩，因為從來沒有東西是必然的。

另外一件令我一生難忘之事就是參觀日本高校，因為本身在香港教育制度下接受教育，未有機會體驗到日本以競爭激烈有名的教育體制，今次見學就能稍稍一窺究竟。一步進今次參觀的學校——武雄高校，就能發現日本的學校十分巨大。之前沿途經過的學校已經不小，有野球場、游泳池等。而武雄高校我形容為高中版的中文大學，比其他一般的高中大得很多，香港的中學完全比不上。而學生們的課後活動亦十分精神。在香港，學業及興趣的主次極為分明，學業的時數遠比興趣多。但日本學校將二者的隔離拉近。他們的課後練習是每天都有，而且每人只能參加一種活動，更為專注。我認為這可能與日本的就職選擇較多樣化相關。如果他們的部活表現出色，絕對能夠以之成為職業。如體育、音樂甚或茶道等都有出路。相比之下，香港學生的出路較窄。人們只願投身金融、醫療等所謂「搵食行業」，被迫放棄很多夢想，這是十分可惜及令人痛心。

但香港的教育仍然有一大優點就是在於國際化。學生接近自出娘胎就學習外語，並勇敢地用外語表達，大部分學校亦有相關配套，如外語是母語的老師、語景是外語等，雖然日本已經急起直追，但可能礙於日本社會仍以日文為主要用語，令學生對學習外語的推動力及興趣不大。大部分學生只是為讀而讀，縱然是大學生，卻仍然不敢說英語，此是日本的一大問題。若日本希望國際化成功，絕對需要更多精通外語的人才。

礙於篇幅所限，只能略表心聲。總括而言，今趟交流之旅能見識到日本的不同一面。有

溫暖窩心的一面，亦有冷漠無情的時候。常常在網絡上見到哈日族的留言，只是吹捧着日本美好的一面，自己亦曾受影響。經過今次交流更了解社會狀況。撇除大道理，在日本結識到的日本朋友亦是我人生的一大瑰寶。現在回想起交流時相處、遊玩的時光，仍然不禁咀角上揚，這是人生一段不會忘記的回憶，亦不會後悔參加這個交流計劃，否則也不能結交一群好朋友。希望未來有一天，能夠全團二十人再聚一次，願彼此友誼長存。在此推薦後輩們參加這個交流計劃，絕對會為你帶來一個一生難忘的暑假。雖然在第二學期可能會比較辛苦，因為需要在課堂及交流行程兩邊奔走，溫習時間亦不足，但當中的經歷是絕對值得犧牲所付出的時間。

Short Summary:

I had joined SAGA exchange program in this summer. This is an unforgettable experience in my life. I will not forget the time with my friends forever. I will explain the reasons in different aspects.

This exchange program is organized by the Chinese University of Hong Kong and Saga University. Japanese Students came to Hong Kong for ten days in February and Hong Kong Students went to Japan for ten days in July too. Therefore, we had lots of time to travel and play with them. It is a good chance for us to meet Japanese friends.

In this twenty days, I met these ten wonderful Japanese friends, they were very kind and helpful. Because my Japanese level is really low, I could not realize what they said occasionally. However, they tried their best to explain to me and talked with me in simple Japanese. this improved my Japanese a lot. Thank you very much, my friends.

This is my first time to meet other countries friends. I got lots of friends and improved my Japanese in this exchange program. It is an interesting experience. Because we have totally different cultural background and language. Although, I could not deliver my meaning hundred percent correctly to my friends, when I tried my best to explain my thought, they could feel my passion. It is very amazing. We talked a lot at every night. Such as dream, job, love, etc. I hope that in the future, I can talk with my Japanese friends fluently.

Although this was not my first time travelling in Japan, I got lots of memories in this program. The most unforgettable memory is visiting a high school. This is my first time to visit a high school in Japan. The most impressive thing of high school students is that they have dream. In Hong Kong, we cannot have dream. We only study and work for money. I admire that they have freedom to look for their dream and I hope that they will be success in the future and do not give up easily.

I found that I have grown up during this program. I have been brave and enthusiastic. I tried to talk with foreigners and strangers in Japan. It was eager for them to share their mind and experience. In Hong Kong, I tried to talk with strangers, but they just answered me in a few words and were not willing to talk with me. Therefore, I will try to talk with strangers more when I study in Japan next year.

Although I sacrifice a lot, I do not regret to join this exchange program. Even I would like to join this program once more. I will not forget the moments with my Japanese friends. I believe that we can be friend forever, miss you guys. I will look for you guys in the future. I recommend this

program to all my kohai. If you join this program, I believe that you will have an amazing summer!

この佐賀プログラムをの知ることは先輩たちに推すすんでもらったのです。先輩の体験を聞いて、面白そうと思いました。それに、私は佐賀に行ったことがなかったので、このプログラムに興味があつて、参加したくなりました。

2月に、佐賀の皆さんが香港に来ました。あの時、私は日本語が他のメンバーほど上手ではなかったです。自然な日本語ができなかったし、緊張していたし、最初はパドナーのかなはさんと話を続けなくて、なんかやばくいってしまいました。佐賀の皆さんの優しさと香港のメンバーのおかげで、こんな私もちゃんとみんなと仲良くなっています。香港で一緒に見学したり、飲茶したり、遊んだりして楽しかったです。

7月、ついに私たちが佐賀に行きました。この数ヶ月にずっと楽しみにしました。出発の日、私たちが二回のフライトで福岡に着いてバスに乗り替えて、ホテルに到着はもう夜11時けど、佐賀のカーリーさんたちがこんなに遅くまで待ってもらって感動しました。

二日目、開講式の後、お昼に学食に行きました。私はこばさんのおすすめの肉そばを注文しました。それが安くて美味しかったです。中文大学では、この値段で多分まずいものばかりでしょう。なので、少し羨ましくなりました。食事の終わった後、私たちが佐賀県庁展望台に行きました。そこで、佐賀市内の景色がなかなか見えます。ちょっと雨が降っていたけれど、やはりすごくきれいだと思います。歓迎会に、みんなが四ヶ月ぶりにまた会いましたので、めっちゃ興奮になっていました。お好み焼きを作ったり(リーダーダナルドのは広島風です)、喋ったり、かき氷を食べたりして嬉しかったです。私もついでに香港のお土産を佐賀の皆さんに送りました。たけしくんは香港で人気おかし「媽咪麵」(訳はお母さんの麵)を当たりました。たけしくんの食べる姿がいつもどおり面白くて笑われました。

三日目の予定は有田です。まずは佐賀大学の有田にあるキャンパスの見学でした。キャンパスは市内のほど広くないですが、施設が完備しています。それに加えて、ラボに入ると、いろんな有田焼の研究サンプル見えます。例えば、ある温度である材料を焼くとどんな色と形になるかの記録と有田焼が見えました。なんかすごいと思います。次はお酒の工場の見学でした。工場のおじさんの教えてくれたお酒の歴史とか地区的な違いとか正直、今はもうあんまり思い出さなくても、おじさんと話されて、すごい大きいマシンを見て、いい体験だったと想います。けれど、私にとって、いちばん面白かったのは有田焼の絵付けです。みんながインクでお皿に絵を描いて焼くのです。私はいつも絵を描くのが苦手ですが、今度はちゃんと努力してせめてくまキャラらしい形を描きました。隣の絵を見ると、「うわ、超うまく行ける」しか思わないです。それにしても、出来る作品はどうかとすごく楽しみします。最後の予定は陶磁文化館の見学でした。そこに有田焼がいっぱい置いてあります。私にとって一つずつも似ているけれど、職員の説明が詳しくてわかりやすいので、ついに分かつことができそうになりました。それから、そこで「佐賀を巡るアニメーション」アニメシリーズをみて、ついでにポスターをもらいました。

次の日は合宿の日です。今回は神集島に一泊に行きました。ホテルから神集島までが遠いのでちょっと時間かかりました。山に上ってサイトについて、みんなも疲れてし

まいりましたので、少々休憩しました。かき氷を食べたり、カードゲームをやったりして、涼しくなりました。充分の休憩の後、私たちが岸に戻って、釣りをやってみました。私が釣りはやったことなかったです。私と一緒に、釣りの経験がなかった人もあったけれど、みんなすぐ釣れました。私はまだ何も釣れなかったのです。多分私はタレントが足りなくそうです。ですが、釣りが面白かったです。夜はバーベキュータイムでした。日本のやり方が香港のと違うんですので、ずっとやってみたかったです。釣りの時にお世話にしたみちゃんがつぶ貝をたくさんくれました。みちゃんの通り、このままで食べるとも少し焼いてから食べるともめっちゃ美味しいです。みちゃんが優しくてかっこよかったです。いつの間にか、恋愛相談が始まってしまいました。私は別に困っていませんでしたが、みちゃんに話されて本当に面白かったです。次の日がニコラス、まこさんとユウキの誕生日なんでしたから、私たちが秘密にしてホワイトボードに祝いのお話の書いたり、絵を描いたりして、零時を過ぎたら、電灯を消して、誕生日の歌を歌いながらボードを出しました。三人の願いの聞いて、これからみんなも自分の目標を目指してよかったですと思います。

五日目は唐津に行く予定でした。私とニコラスの自主発表のテーマがアニメ聖地で、ちょうど「ユーリ!!! on ICE」というアニメは唐津でよく取材したことがあります。なので、私、ニコラス、ドナルド、そしてパドナーのたけしさんとかなはさんがついでに調査しました。鏡山温泉茶屋、駅前、唐津城、商店街、私たちが唐津を巡りました。唐津城が工事中なので中に入れないで残念でしたが美味しいカツ丼を食べたり（調査のため）、アニメのシーンを再現してみたり、たくさん写真を取ったりして、調査しながら随分楽しく遊びました。それに、駅の案内所に「ユーリ」の聖地巡礼のパンフレットも置いてあります。パンフレットにはアニメのシーンに対して現実の場所を詳しくマップに書いてあります。「ユーリ」のファンにとっても普通の観光客にとっても宣伝するのがよくできてありがたいと思います。唐津をまわってよかったです。

六日目、他のメンバーも最後の発表のためいろんな場所で調査しました。けれど、私とニコラスはもう唐津でよく調査しました。ですから、私たちがドナルドの組と一緒に佐賀の方言について調べました。一度佐賀市市民活動プラザの職員にインタビューして、たくさん佐賀弁を教えてもらったのです。例えば、「あつい」は「ぬつか」で「とても」は「がばい」とします。いちばん面白くて深く覚えるのは「きゅーのしゃーは、きゃーのしゅー」です。標準語訳は「今日のおかずは、貝の汁」となります。これは何度も聞くと分かるはずがないと思います。本当によく勉強になりました。夜、おいしい丼の店に行きました。私はふわふわの丼を食べて、幸せになりました。それに、誕生日の三人にケーキを送ります。丼もケーキもおいしかったと思います。そして、みんなでカラオケに行きました。しずかさんとたけしくんの声を聞こえるのは良かったです。

七日目は鹿島に行きました。まずは祐徳稲荷神社です。本来は山のいちばん上に登りたかったのですが、時間が足りなくそうですから、諦めてしまったのです。代わりに商店街のおじさんとしゃべりました。祐徳稲荷神社離れて、次は道の駅に行きました。あそこのある場所が水面が鏡みたいに空の映ります。すごくきれいだと思います。中文大学もこうやって「天人合一」という場所があるのですが、そこに全然比べないと思います。道の駅がもっと広くて綺麗です。次の予定は武雄高校の交流でした。私たちが二つの英語の授業で香港のついてプレゼンテーションをしました。そして、学生のグループに入って話ししました。二人の女性が私の「ローソン」のニックネー

ムを聞いてから笑うのは止められないで少し困っていたんですけど、大体楽しかったです。放課後は部活見学の時間でした。いろいろなクラブの練習を見せてもらっていました。茶道部とかバレー部とか野球部とか弓道部とか私が全部見たことなかったです。中学校のころ、コンピューターのサークルにはいったのですが、あれみたいなクラブは全然なかったですから羨ましいです。

八日目の予定は大体キャンパスばかりでした。朝は日本語のクラスを受けます。私が日本語だけのクラスを取ったことなかったなので、授業まえに少し心配していました。ですが、授業は想像より理解できるのです。私はこの授業で受身の種類と受身の使う場合を教えてくださいました。先生がしっかり説明してくれましたし、隣の学生とよく論じましたし、内容はすぐ分かりやすくなりました。次の授業は「異文化交流」というクラスなのでした。私たちが香港の紹介をして(今回は日本語で)、佐賀大学のかた話されました。苗字とか趣味とか香港のこととかいろいろ話しました。面白かったと思います。授業の終わった後、クラスの学生の何人と学食でお昼を食べて、図書館に次の日の発表の準備に行きました。準備の終わって、ラウンドワンでボーリングしました。私があんまりやっているから下手に行ってしまったが、しずかさんがめっちゃうまく行きました。

九日目、発表の日、ついに来ました。私たちが吉川の授業でもう一度香港の紹介をして、ひと組ずつ自分のテーマについて発表しました。プレゼンテーションを通じてみんなが頑張っていたのを確かめました。全員もよくできました。この後は終了式でした。修了証をもらって、みんながこのプログラムの感想を話しました。私は感謝の言葉、香港のみんなと佐賀のみんなと話したいことがいっぱいあったのに、頭が真っ白になってしまって何も話さなかったのです。これが大変申し訳ないです。ある佐賀プログラムの先輩も終了式に来てもらったんですから、一緒にお昼を食べます。そして、先輩と話しながらこの辺りを周りました。先輩が広東語が少しできるので驚きました。夕方、県庁展望台のレストランに送別会に行きます。この景色は初めて見たのより綺麗だと思います。私は次の日に佐賀を離れたから、これが最後の日でした。みんなで徹夜でカラオケをして最後の時間を渡りました。佐賀に滞在あつという間が終わりました。

このプログラムに入ったのはほんとによかったと思います。みんなのおかげで、みんなと知り合って、日本語が少し上手になって、佐賀のことをちょっと詳しくなって、がばい楽しかったメモリー作ってほんとにありがとうございました。佐賀の皆さんとまたいつか会うのを期待しています。香港でも佐賀でもほかの場所でも会えるかもしれません。この前に私もバイトする方がいいかなと。

Short Summary

Saga Exchange program is one of my most unforgettable experience in my lifetime in no doubt and I would definitely recommend this invaluable opportunity to other students who major in Japanese Studies.

The program consists of two parts. In the first part, participants from Saga University come to Hong Kong for ten years in February, while the second is our turn to go to Saga in July.

Not to mention the second part of the program, the first part is also a fruitful and precious experience for me. During the ten days in Hong Kong, we went to a wide variety of places for field trips with the students from the Saga University. To be honest, as a Hong Konger, even I have never been to some of them such as the village in Sheung Shui. I was reminded that even in Hong Kong, there are a lot of good places which is worth exploring.

The times in Saga was undoubtedly fruitful, meaningful and irreplaceable. I have never been to Saga before so almost everything there was new to me. Every activity provided me a great opportunity to communicate with different people such as the shopkeepers, teachers in high school. Every time I talked to them, I learned a little more. I was also able to know more about the life of my friends in Saga University. Where they would usually go for lunch, which restaurant or shop there are around the town, and so on. I was glad that I got to know more about them than when they came to Hong Kong. Furthermore, after meeting so much people, I learnt to communicate with different kinds of people. I met two students who could not stop laughing at my nickname (I know it was funny but they just kept laughing for unusually long), yet I could still communicate with them (I failed to stop them from laughing though).

Another point that is worth mentioning is that my Japanese level improved throughout this program. I seldom had the opportunity to talk to native Japanese and my Japanese speaking fluency was extremely poor before participating this program. In the twenty days of the program, I needed to speak Japanese almost every time. That means there was a lot of valuable chances for me to practice Japanese speaking with native speakers. Not only speak, I also listened a lot from them and this is another great chance to learn Japanese. I could even learn some interesting Saga dialects and I felt like getting an achievement every time I learnt a new one. Beside improvement in Japanese fluency, I became more confident to speak to others and this is definitely useful for my future.

To conclude with, the Saga Exchange program is truly a wonderful experience which broadened my horizons, improved my communication skills as well as Japanese proficiency. I never regret participating this meaningful program as I made a lot of friends and has built solid friendship with them throughout the program.

Chan Pui Lam Jodie

This year, I joined an exchange programme for the first time in my life. The Saga Exchange Programme was held in two parts: the Japanese students from Saga University visited Hong Kong in February, while we visited Saga in July.

At first, I was reluctant to join the programme. I had never joined an exchange programme before, and this programme seemed like it was very demanding: we needed to be interviewed before we could get accepted, and we also needed to do research and write reports during and after the programme. That's why I didn't apply for the programme in the beginning, as I was afraid I couldn't do all that work. However, I still wanted to meet the Japanese students, so when the department recruited volunteers to be helpers for the programme, I immediately applied, and the 10 days of interacting with the Japanese students made me change my mind to eventually join the programme.

When we greeted the Japanese students at the airport, I was really nervous about talking to them. What if my Japanese wasn't good enough? What if I was bad at keeping the conversation going and just made things awkward? However, when we actually started talking, my worries disappeared quickly. The Japanese students were all very eager to talk with us and ask us all kinds of questions about Hong Kong and our lives. Even when we couldn't find the right words in Japanese, they were very patient and tried their best to understand, never laughing at our accents or giving up on listening. Already, I had a great impression that they were friendly and that the programme might not be as intimidating as I thought it was.

Since I was a helper and not an actual member of the programme at the time, I was not required to join every event and go to every place they went to, and could choose where and when I wanted to join in. At first, I only planned to join when I was absolutely free and had nothing else to do, which meant only around 3 days in the 10 days their visit lasted. However, I found myself joining them at every opportunity, even when I had classwork due the next day, or when I had to rush after lessons to catch up with them before they went elsewhere. Of course, I still couldn't be with them all the time because of lessons and other matters, but I found myself growing more and more attached to these students who I knew nothing about before the programme.

During the Japanese students' visit, I tried my best to tell them all I knew about Hong Kong, and they talked to me about Japan in return. Although they were the guests, sometimes I felt that they were the ones being hospitable to us as they were so friendly and eager while I was nervous and shy. We took them to visit different places in Hong Kong, such as The Peak, Yuen Long, Wong Tai Sin Temple, and at last, we went to see the view at Victoria Harbour. When we were leaning on the railings along Victoria Harbour and looking at the great view, I realized that I didn't want the Japanese students to leave so soon. I hadn't been with them for a lot of their visit, so I still wasn't so familiar with most of them, and I even couldn't remember some of their names until the last day. I felt that I wanted to talk with them and get to know them more, and I also wanted to let them know how much fun it was for me to take them around Hong Kong and introduce the things I grew up with to them. Thus when I saw that the helpers were also welcome to join the programme because there was still quota for us, I handed in my application as soon as I could, and joining the programme turned out to be the best choice I made this year.

I had never joined any exchange programmes prior to this, and neither had I travelled overseas without my family before, so I was even more nervous than when the Japanese students visited. Again, my worries disappeared the moment the teacher we met in February came to pick us up from the airport at night. It was late and raining, but he still came all the way to the airport, which reminded me how friendly and hospitable they were last time.

On the first day, we were picked up by a few of the Japanese students and went to Saga University for the opening ceremony. After that, we visited the observatory where we could look over most of the Saga prefecture. Sadly, the weather was bad and in fact it rained for most of our stay. The view wasn't as clear as the photos suggested, but it was still cool to see how low the buildings were compared to Hong Kong's high-rise buildings. Even though we were just looking from around the 5th floor, we could see almost everything below us. After that, we went to a shrine nearby, and on the way towards the shrine we passed a lake filled with lotus leaves; we later learned that it was part of the defence system of a nearby castle in the past. The shrine itself wasn't very big, but it consisted of many small shrines that worshipped different gods. There was one all painted in yellow which worshipped Ebisu, and one which had a torii made out of porcelain. Inside the shrine I made my offering and also bought an omikuji, while some of the others fed pigeons in the yard (it was fun seeing the pigeons perch on their arms even when they didn't have any food). As we headed back, we passed a river which had many little statues along it. They were all statues of kappa, and each one had its own description, such as the father kappa that apparently doesn't want to go home to his wife and stays in the water. I was tired by the time we started heading back, but the little kappa statues distracted me from my tiredness. One of the Japanese students said that they passed this path all the time. I would love to see fun little statues every day on my way home too, but sadly there's nothing like that near my home in Hong Kong.

When we got back to the Saga University campus, we were welcomed warmly by the rest of the Japanese students who were preparing a welcoming party for us. They ordered party food and also made okonomiyaki by themselves to treat us. During the party, other than the home-made okonomiyaki and normal party food, there was a special food in the party set which was a completely black dried fish. At first no one dared touch it, and not even some of the Japanese students knew what the fish was. In the end, we asked a teacher, and he told us that it was mutsugorou, a kind of fish that is commonly found in Saga marshes. Although it was completely black and didn't look at all appetizing, it was apparently pretty tasty according to my friends who tried it (I wasn't brave enough to try it in the end). We also made our own shaved ice with a shaved ice machine. It was overall a really fun night and it hyped me up for the days to come.

The second day was a whole day in Arita, where we learnt all we could about Arita-yaki, the special style of porcelain made only in this specific region. We first went to a school that taught specifically about porcelain making, and I was amazed at how specialized everything in the school was, from different furnaces to specially made clay. After seeing how the special Arita-yaki was made, we went to a shouchuu-making factory, where we saw all the steps to making the famous rice wine of the region. After lunch, we finally went to the main attraction of the day: a workshop where we could make our own Arita-yaki plates. At first, I thought that the workshop would start from making the plate itself using a potter's wheel or something similar to the tools we saw at the school. However, I had greatly underestimated the time needed for a plate to be made, and that would obviously take too much time, even more than our whole trip combined. The workshop was, therefore, just the painting part, where we painted any pattern we wanted onto a pre-made plate. Since I had seen the elegant and detailed designs

the teachers and students at the school we just visited could make, I was a little worried that I might mess up and ruin the plate. However, the workshop provided prints for us to trace patterns from, and even encouraged us to not just use the elegant traditional patterns we saw, but anything we could think of. I chose, like a lot of the others, to draw a cartoon character that was simple and would stand out against the white background of the finished plate. Some of the others painted logos of clubs they were a part in, and some used several patterns provided to make a picture. Even though we only did one small part of the entire Arita-yaki making process, we already spent a lot of time since we were trying to perfect our designs. When I heard that the plates would be sent to us in the new school year, which was months away, I could hardly imagine how long the entire process would take. I felt strongly that Arita-yaki is a difficult art that requires a lot of time and patience. This feeling became even stronger when we visited the porcelain museum, where we learnt how Arita-yaki came to be and how it was made in the past. All the intricate designs on display in the museum must have taken a lot of patience and a steady hand to make.

The third day was probably the most memorable day of my visit to Saga. After a long bus ride and a stop for lunch, we arrived at a harbour and boarded a ship to Kashiwajima, a small island near Karatsu. We were going to stay there overnight and experience life on the island. The first thing we did when we arrived was hike up the mountain to the place where we would put down our luggage and sleep at night. The weather was great and the hike wasn't too tough, but because I'm quite weak physically, I was drained of energy by the time we arrived. The owner of the place was very kind, giving us some shaved ice to cool down as we rested inside. Afterwards, we went back down to the harbour to try out fishing. I was too afraid of getting hooked by the fishing rod to actually try it out, but it was fun just watching my friends trying to get a catch. One of them was very skilled and caught a lot of fish on his own, despite him not having much experience. I mostly sat near the edge, feeling the wind coming in from over the ocean and listening to the local fishermen chat and teach the others how to fish. I spent most of the afternoon doing that, but I wasn't bored, as it was very peaceful and comfortable just enjoying the time there. After hiking up the mountain once, I knew I wouldn't make it up a second time without dragging behind, so I asked the owner if I could get a ride on his pickup truck. Not only did he agree, he even let some of the others sit in the back. Looking at the meter, the truck wasn't going at high speeds at all, but it felt really fast as the small truck ran on the small, winding mountain roads. The owner slowed down at some points, telling me how the view of the harbour was the best at that section of the road. The view of the sunset on the horizon was indeed amazing, and I doubt I will forget it anytime soon. At the same time, the people riding in the back enjoyed their roller coaster ride. Back at the site, we set up the barbecue for our dinner. We had prepared a lot of food for the barbecue, and adding the fish we had caught in the afternoon, it was quite a great meal. As we were preparing the fire, the owner and his nephew came around and brought with them a large crate of oysters as a gift for us. We ate and chatted around the barbecue and although it was hot and humid, it was a great night. The next morning, we left the island right after breakfast, and the owner saw us to the harbour with a smile. After leaving the island, we went on to Karatsu Palace. Originally we could have gone inside the palace, but unfortunately the area was closed for maintenance and we could only look from the outside. There was even collaboration with the anime Yuri on Ice, and I bought a souvenir for my friend. At night, we went for karaoke and listened to everyone's hidden singing talents.

The next day was a free day for us to do our research and prepare our presentation for tomorrow. One of the Japanese students had kindly helped us arrange a meeting with a

member of an NGO with their office nearby. Since our study was about the Saga dialect, this meeting helped us a lot. The NGO member was very helpful and gave us many examples of the Saga dialect, as well as explained some of the history behind the dialect and similar ones such as the Kagoshima dialect. Though I was tired from all the walking in the past few days, the interesting things he had to say caught my attention. We learnt that the lake with lotus leaves was part of a castle defence here. He was also impressed by our Japanese and said that we were so fluent he felt like he was speaking to locals, but honestly I didn't even speak much and think that my Japanese still has a long way to go. Still, I really appreciated his compliment. After the interview, we had time to walk around. We mostly just strolled aimlessly, but we found some interesting things along the way, such as a shop selling goods of Sagantosu, the Saga football team. At night, we joined up with the others who had gone elsewhere for their research, and went to get sushi. The sushi was cheap and also fresher than what I was used to eating in Hong Kong, and I ate as much as I could.

The next day was the day of our presentation, but first we went to visit another, larger shrine. This shrine was much larger and grander than the one we had visited on the first day, and it covered the whole mountain. My favourite part of the shrine, however, wasn't the grand parts or the part at the top of the mountain, but a smaller shrine off to the side. It was small and in another area, so I didn't notice it at first. When I did, I just had to get close and take a picture. There were many small statues of foxes, and in the secluded area the small shrine seemed like a different dimension. After the others returned from hiking all the way up to the top of the mountain and I took a rest near the small shrine, we headed out to Takeo High School, where we would do our presentation. We presented first on Hong Kong and our university to the high school students in English, and then we had group discussions with them, also in English. Their English was basically how I expected; they weren't used to using English at all, and their English level was about the same as a Hong Kong primary school student. However, they were still eager to try, and with a little Japanese, we managed to communicate just fine. After the English lessons, we were greeted by some other students, who took us on a tour around the school to see how the bukatsu in the school were like. There were many clubs practicing that day, and we looked at most of them. One thing that I noticed was that the gyms where the sports clubs were practicing had no air conditioning at all. Even the kendo club members, who were wearing a lot of padded armour, had to practice every day in a hot and stuffy room. According to the students, this was normal for Japanese schools, and none of them really found it problematic. The club I found most impressive was the archery club. The members showed us how to pull the bowstring and demonstrated shooting a target. The captain was even wearing a hakama and looked really cool. Walking around the high school campus was really tiring and reminded me of when we were only allowed to use the stairs in secondary school.

The next day was also a presentation day. We did our presentation about Hong Kong, and also attended a Japanese course that taught local Japanese how foreigners learnt Japanese as a foreign language. The things taught in the lesson was really similar to the ones I took when I was learning Japanese myself, so it felt really easy to understand, but to the local students, it was apparently hard to understand Japanese through foreign methods. We also attended another course which facilitated inter-cultural interaction, and we talked with both local and foreign students about differences between our cultures. The afternoon was for us to prepare our final presentation, but since we did a very in depth interview, we managed to finish off the preparation very quickly, and so had a lot of time left to again walk around. We went to Youme Town, a huge department store, where we shopped for the rest of the afternoon.

The next day was the last day of our trip, and it was finally time for us to present our research findings. The presentation went more smoothly than I thought it would, and it felt like a weight was finally lifted from my shoulders. Then there was a closing ceremony where we received our certificates, marking the end of our long trip. It wasn't time to go home yet though, and we went shopping and bought ice cream before the fancy dinner that was prepared for us at the observatory we visited in the beginning. We exchanged letters and souvenirs with the Japanese students, who we had become friendly with by the end, and played charades. After the dinner, we didn't want to just leave and get ready for the plane, so we decided to go for karaoke again, this time overnight. It was the most exciting karaoke night I had ever experienced, and I'm glad I got to share that moment with my new friends.

All in all this trip was quite the experience for me, and I'm very glad that I took that first step to join the exchange programme. If I were offered the chance to join another programme like this, I wouldn't hesitate like I did this time.

Short Summary:

This year, I joined the Saga Exchange Programme, which was a programme held in two parts: The Japanese students from Saga University visited Hong Kong in February, while we visited Saga in July.

I was not initially part of the Programme, as I was worried that it would be too demanding for me. However, I was still interested in interacting with the Japanese students, so when the department recruited volunteers to be helpers for the programme, I immediately applied.

The first part of the programme was the Hong Kong participants and us helpers showing the Japanese students around Hong Kong. At first I was nervous that my Japanese wouldn't be good enough, or I wouldn't be able to keep a conversation going, but the students were so friendly that my worries disappeared by the end of the first day. As a helper, I wasn't required to join every event and go with them everywhere, but I found myself joining them at every opportunity, as I grew more and more attached to them. We took the Japanese students to different places like The Peak, Wong Tai Sin Temple, and Victoria Harbour. By the end of the programme, I realized that I wanted to talk with them more and experience more with them. When I saw that the helpers were welcome to join the programme as well, I handed in my application as soon as I could, so that I could see my new friends again in Saga.

The second part of the programme started in July, and we Hong Kong students flew to Saga to stay. On the first day, we first had an opening ceremony, and then we went to an observatory where we could look over the whole city of Saga. Afterwards, we went to a nearby shrine. I bought omikuji and we fed the pigeons in the yard together. We headed back to the university after that, and on the way we passed a river with many little statues along it. They were all statues of kappa, and each little statue had its own description to go with it. When we arrived back on campus, we were welcomed by a group of the students who were preparing for a welcoming party. They bought party food and even made their own okonomiyaki and shaved ice. There was even mutsugorou, a kind of fish found in marshes in Saga. I wasn't brave enough to try them, but apparently they tasted great.

The second day was mostly spent in Arita, where we learnt all about Arita-yaki, a special style

of pottery made only in this region. We first went to a specialized school that taught pottery making, where I was amazed by all the different furnaces and clay used to make different products. Then, we visited a shouchuu making factory, where we saw all the steps to making the famous rice wine of the region. After we had lunch, it was time for the main event: a workshop where we could make our own Arita-yaki plates. Of course, we didn't make the whole plate from scratch; we only did the part where we painted on it to decorate it. There were many patterns provided for us to look at or trace, and we could also draw whatever we wanted. Lastly we went to a museum showing Arita-yaki from different time periods and how they were made.

On the third day we went to Kashiwajima, a small island where we would stay overnight. We went there by boat, and had to hike up the mountain to where we would stay. In the afternoon we went fishing, and the fish we caught were used in the barbecue at night. When we headed back to camp, I hitched a ride on the camp owner's truck, while some of the others sat in the back, and I enjoyed the ride up the mountain more than anything else. After a happy barbecue with gifts from the owner and his nephew, we slept on the floor and left the next morning after breakfast. We then headed to Karatsu Palace, which was unfortunately closed off for maintenance, but we still took pictures outside the palace.

The fifth day was a day for us to do research, and one of the Saga students had kindly arranged a meeting with an NGO member who had an office nearby for us. We interviewed him about the Saga dialect and its history. We then walked around town in the free time afterwards, and had sushi for dinner.

On the sixth day we first went to visit another shrine, this one grander than the one we saw on the first day. It was so big that you had to climb a mountain to see it all. After that we visited Takeo High School, where we did our first presentation on Hong Kong, and had group discussions with the high school students in English. We then took a tour around school to see the different bukatsu that they had, and I was most impressed by the archery club.

On the seventh day, we took a lecture in Saga University about how foreigners learn Japanese as a foreign language. We then went to another class where we did our presentation on Hong Kong again, and then we interacted with both local Japanese and foreign students. Afterwards, we prepared our presentation on the Saga dialect, and in the free time after that we went to Youme town and shopped.

The last day was the day for us to present our research findings. After the presentation, there was a closing ceremony where we received our certificates. We then walked around town again until evening. We went to have a fancy dinner prepared for us by the department, and ended the night with overnight karaoke.

All in all, the programme was an amazing experience for me, and I would love to join another one like it in the future.

自分の日本語能力をどこまでだと知りたいから、日本語でこの報告書を書きます。

初めに、中文大学、佐賀大学の先生方に感謝の気持ちを申し上げたいと思います。私たちのことを考えて、スケジュールの作成とか大変だったでしょう。本当にありがとうございました。そして、もちろん佐賀大学のみんなにも感謝の気持ちがいっぱいです。初めての交流プログラムですので、自分がどうすればいいのは全然わからない中、親切に話しかけて、いろいろ教えてもらって、本当に助かります。いい思い出がいっぱい作った。香港のみんなともさらに絆を増え、楽しかった。

このプログラムでは、友たちがいっぱいできて、日本のこともさらに詳しくなって、いろいろ勉強になった。それに、このプログラムのおかげで、今の自分にとって一番大切な人と出会えた。

あんまり長くならないように、香港のパートはまとめて書きます（笑）初日に空港へみんなを迎えていくとき、本当に緊張した（笑）佐賀大だけでなく、中文大の人にもまだ知らない人がいるから、不安の気持ちがいっぱいです。夜にはこぼ、まこ、（俺の）シンディーちゃんと一緒に香港のラーメン（？）を食べて、香港の一般的な飲食店を紹介しました。二日目は大学の紹介で、夜にはなつみさんの誕生日をみんなで祝った。こぼとみんなが協力して、サプライズ大成功でした！

三日目は授業あるのでみんなと授業出られないだが、授業の後に一緒に食文化の博物館へ行って、そこで香港人の自分にもよくわからないことをいっぱい学んだ。夜はみんなで初めて香港の二階建てバスを体験して、モンコクの吉野家でしゃぶしゃぶ食べた。日本のお店なのに日本にはないメニューを食べて新鮮感がいっぱいでしょう。大学に帰る時ミニバス一台貸し切り状態でみんなとはしゃいた。こうやって香港の独自の文化を体験させてもらってよかった。四日目は授業が結構入ってて、あんまり参加できないだが、佐賀県の紹介を聞くことができ勉強になった。夜には女人街へ行って、香港の市場を堪能した。

五日目は飲茶へ行って、高校を訪問した。シンディーの母校だと知って緊張したけど、高校生が盛り上げたので助かった... 夜にはみんなで香港スタイルのバーベキューをやって、師匠の指導の元に肉とかうまく焼いておいしかった。香港スタイルのバーベキューは会話の場をつくるからみんなとも結構話してよかった。

六日目は上水に香港の古い村を見学して、村長からいろいろ勉強しました。村長さんのご厚意で香港のレトロなレストランと中学校の食堂を体験することができました。そのあと、みんなは湾仔に日本人の交流へ向かって、自分たちはヴィクトリアピークへの準備をした。めちゃくちゃ寒いだがみんなが綺麗な夜景の前に素敵な笑顔してた。

七日目は馬湾のクリスト教施設にトレーニングを行われました。過酷の活動だがみんなが協力して全部クリアした。こういうチームワークが大事ですね。一番印象に残ったのはまこちゃんと一緒に高い壁を登ったこと。まこちゃんは高いところが苦手にもか

かわらず、限界を超えて頂上まで登ってた、きつとこわいけど一緒に懸命で乗り越えた。いまでも尊敬してます。自分もこうなりたいんだ。

八日目は自主課題調査ということで、みんなには香港伝統的な飲茶を体験してもらった。自分たちに対する当たり前なことでもやはり日本のみんなには衝撃だね。例えば香港人は普通に鳥の足を美味しくいただくけど、日本人には変わり過ぎかな。神社には「攝太歳」っていう生まれた年によって運勢が悪い人が神様に願う伝統行事で、自分も以前からしてるけど今回はじめて自分でやるでみんなに説明するから自分の文化への認識が深めた。

最後の一日は修了式で、泣かないって決めたけど涙が耐えず自分が何を言ってるのをまったくわからなくなった（笑）この日を大切に、みんなとたくさん話した。正直別れたくないです。ずっと一緒にいて欲しかった。でもやっぱできないから最後の最後にせめて見送るのを決めたのでソフトボールの授業の後に体操服も着替えずにゲストハウスまで爆走した。しんどかった（笑）でも楽しかった！

日本での活動まで5ヶ月も空いてるからみんなとの絆がなくなってしまうのをずっと心配したけど、そんなことがなかった。五月に安い航空券があったから佐賀まで来てこぼとか一りーが課外授業があるにもかかわらず駅のバスターミナルまで迎えに来て、佐賀を案内してくれた。バスの時間で屋形船乗れなくて残念だけど、一緒に遊んで楽しかった！

そして無事に七月を迎えた。福岡空港に吉川先生に会ったら久しぶりの感じした。わざわざ福岡空港まで出迎えたことを感謝します。吉川先生はつよい味方です。佐賀は台風の影響で雨だったんですが、この後に日程に対するわくわく感がとまりません。初日から佐賀大学の学内、それに佐賀市を散策しました。佐嘉神社と市役所のあたりに散歩しました。久しぶりにみんなと会ったからたくさん話した。二人の話をまとめると大変だった（笑）自分の日本語能力をもっと鍛えるといけないですね。歓迎会でまよちむとあやかとこぼと一緒に好み焼きを作った。実は好み焼きを作るのは初めてだけど、うまくひっくり返してよかった。やっぱり広島のお好み焼きが一番ですね。料理が好きけどうまくできないのが怖いからあんまりしてないけど、おいしくできたみたいからよかった。。。料理に対する自信を取り戻した（笑）

二日目の有田見学もとってもおもしろかった。佐賀大学の有田キャンパスを見学して、有田焼の絵付け体験、さらに有田焼に関する資料がたくさんある佐賀県立九州陶磁文化館を見学しました。元々から焼き物が好きで、その中に日本を代表する有田焼を見れて大変有意義でした。絵付け体験にポケットモンスターのプクリンを描いたけど、絵を描くのがあまりにも下手すぎて全然プクリンに見えなかった。焼きたてのお皿はまだ手に入っていないけど、楽しみにしています。武雄高校の訪問も楽しかった。高校生と同じ趣味持ってるからめっちゃ盛り上がった。学内を案内する子もサガン鳥栖ファンということで、高校だけではなく、サガン鳥栖の話もたくさんした。日本の高校生活は香港と違っていろんな部活があって面白かった。ちなみにはじめてトイザラスでプリキュアのグッズのために1万3000円を使う人を見ました。怖かった。

今回で一番楽しみにしてた、そして楽しかったのは神集島の合宿です。はじめて釣り竿を使って釣りしたけど、あじ一匹釣れてよかった。夜には日本スタイルのバーベキ

ューをやって、さらに西元さんたちのご厚意でおいしいサザエたくさんいただいて、幸せだ。西元さんたちのおもしろい話を聞いて、はやくも夜中になった。花火ができなくて残念だけどそれでも最高の夏の夜でした。さらに7月9日はたまたまにまこちゃん、ニコラス、ユウキ三人の誕生日みんなで一緒に祝った。朝にはざいちゃんがおごった餃子を作って、みんなで食べた。みんながおいしく食べるのを見るのが好きです。でも痴漢じゃないです（笑）神集島から帰っていろいろな事情があって別行動になっちゃったけど、ずっと行きたかった虹ノ松原へ行けてよかった。こういう自然の景色が大好きで感動した。それと前にインスタグラムで佐賀のご当地アイドルの投稿を見て行きたかったカフェにも行けておいしいごはん食べられて感動でした。

自主課題発表に向けて自分たちは佐賀の方言について調べた。まさかパートナーのこばが佐賀大学のOBで佐賀市内のNGOに働いている秋山さんに会わせてもらった。佐賀の方言だけではなく、佐賀の歴史や文化についてインタビューを通じてたくさん勉強しました。おかげで資料を探す苦労はあんまりしなくても済んだ。その後にはゲーセンと回転寿司を楽しんだ。

その後の日は授業が続き、日本の大学の授業を体験させていただきました。

授業中にほかの佐賀大学の生徒とたくさん話して、友達が増えました。佐賀と日本についてたくさん話していい経験だと思っています。

最終日の発表はとても緊張していました。方言は本当に難しくて、認識が足りないと思ったのですが、いろんな方からアドバイスもらったり教えてもらったからまあまあできたみたいので安心しました。最後の最後に佐賀を散策しました。前に香港に来た先輩にも会って、しかもシンディーの友達だったし同じ趣味を持ってるから久しぶりに会ったみたいな感じだった。次回は福岡にも行きたいだな。送別会は日本のみんながゲームを考えてくれて盛り上げてくれて本当にありがとう！そしてカラオケで徹夜して、お別れの時が来た。

プログラムが終わっても一旦佐賀にこばのうちに泊まったから日本人の普段の生活について詳しく知ることができた。こばとたくさん話してお互いの考えが理解できた。

佐賀から離れたらしばらくみんなに会えないでしょう。でも香港と佐賀のみんなの友情はそんなに簡単には潰れません。送別会でノリで話してた年末台湾旅行も実現したいまはこれを確信しました。他のみんなともいつかどこかに出掛けたいだな。香港に来たら授業サボっても絶対案内するよ（笑）

今回のプログラムは初めての海外交流なので参加するときは緊張したけど、いい経験になりました。やはり交換留学ってことは遊ぶだけではなくて、勉強もいろいろな人との交流も必要だと思います。これは自分で旅行で日本に来て取れない経験です。プログラムが終わって自分であっちこっちに旅行したときに改めて思いました。

今年の佐賀大学は不思議でした。みんなとの絆は永久不滅だ。

Short summary

The Saga University CUHK exchange program held in February and July. This year, 10 students

from Saga University and 8 from CUHK joined this program. At first, I would like to express my thanks to all the staff and sensei involved in the program to give us this precious chance to exchange in Saga and arrange almost everything for us. We have had a wonderful experience in the program.

In the Hong Kong section in February, we have tried various Hong Kong style food, like yum cha, hot pot and barbeque. Chinese style dining provided a great platform to communicate and learn about cultural difference. Joining this program, I have learnt more about Hong Kong. I found that I am not so familiar with Hong Kong even though I am a Hongkonger. We have visited an old village in Sheung Shui, and the master of the village had told us various old stories of Hong Kong and the local culture. We have also visited a local temple, Man Mo Temple in Sheung Wan, to worship the God of studying. Some of us even carry out the ceremony to worship the Tai Sui as we offended it this year. It is difficult for me to explain the purpose and way of worshipping Tai Sui. I found that I have to learn more about our traditions and culture. In the training camp in Ma Wan, we have challenged our limitations. It turns out to be a good experience to examine ourselves. On the day of farewell, all of us cry. We can't meet till July and so I dash to the guest house even I have just finished my softball lesson in my PE uniform. We greeted and say goodbye sadly, and also looking forward to the reunion in July.

In the Saga section, we are so excited about the reunion that we talk a lot when we walk around the Saga city. We also cook some Japanese dishes during the welcoming party, such as Hiroshima okonomiyaki. In Saga, we have done lots of activities that we are not able to experience in a simple travel on our own. We have go to a camp and had a barbeque dinner, fishing and talk with the locals on the island. We also visited a high school, talk with the energetic students at school and learn about the high school education and activities in Saga. We have also joined some classes in Saga University, having the class with other Saga students. My partner even arranged an interview with a former Saga University student now working in an NGO of supporting Saga citizens' lives to let me prepare the presentation about Saga's dialect.

In this program, I think it is more important to exchange our culture with the Japanese, and most importantly, to learn in the program, other than playing.

Although we have already left Saga, I think that our friendship will not broke forever. It is fantastic that 4 pairs born in this program. And we hope we can see each other soon in the future.

Cheng Yu Hei

七月五日に香港国際空港から福岡空港へ行きました。到着したとき吉川先生が迎えに来ましたから、私たちはよく嬉しいでした。あの日、交流プログラムは始めました
七月六日

朝に、佐賀大の皆ホテルに私たちを迎えに来ました、もう一回皆と会ったことはとても嬉しくて大変感動しました。そのあとはバスで佐賀大学に行って開幕式に参加しました。開幕式に佐賀大の皆は全体出席しました。

開幕式のあと、佐賀大の皆は佐賀大学を参観して連れてくれました。いろいろな学部や、図書館や、学生食堂など、全部参観しました。昼ご飯は学生食堂に食いました。佐賀大の食堂はセルフサービスです、自分で好きな食べ物を選んで持って会計しに行きます。皆は食事に御飯を食べたり、喋ったり、写真を撮ったり、本当に楽しかった。

食事のあと、カリと小林が私たちを市内に連れて参観しに行った、まずは佐嘉神社、あとは佐賀城跡、佐賀工房などでした。城跡の周り、カッパの飾りがいっぱいにあります、石像とか、芸術品とか、城を周る渠に可愛い河童石像があります。佐嘉神社にもかっぱを供奉する末社が建ちました。



参観することのあと、佐賀大に戻る、佐賀大の皆は私のために歓迎会を行いました、歓迎会にお好み焼きを作った、いろな日本料理を食べました。佐賀の特産ムシゴロを食べました、外表が変ですが、おいしいでした。



七月七日

第三日、朝から有田に行きました。旅行バスで佐賀から一時間半ぐらいかかりました。バスのうえで、佐賀大のみなは有田の旅行経験を話しました。皆はほとんど行ったことないから、楽しみました。まずは佐賀大の有田分校に行った、有田分校は陶芸系の分校ですから、陶器を作る設備が完璧です。分校の校長先生が私たちに分校を案内してくれました。いろな教室を参観しました。陶器を作る教室や、陶器の硬さ、陶器塗料の成分を調べる実験室や、焼き窯や、展覧の CM を撮る部屋などです。校長先生の説明も詳しいでした、在校生も交流しました。

そのあと、宗政酒造の酒造場を参観しました。焼酎と酒の作り方を勉強しました。宗政さんは詳しくて丁寧に焼酎の歴史をせつめいしてくれました。酒造場には高くて大きな酒缶がたくさんあります、高さは 10 メートルぐらい、壮大です。



ひるごはんのあとは、有田焼の作り体験した。作り体験というけど、実は釉薬で素胚を絵が付きだけでした。最初に絵が付きは紙に描くことのように簡単と思いましたが、本番にするときがとても難しい、素胚は皿ですから、平ではありません、鉛筆でスケッチすることも困難でした。最後はクマモンを描いた。

最後は有田焼の博物館を参観しました。佐賀に有田焼の輝きの歴史を勉強しました、貴重な有田焼の花器、壺、飾りを見た、とても美しいと思います、一緒に、有田焼の上に、そんな綺麗な柄がどうやって描かれたことを考えていましたが、創作者のプロと技術を尊敬しました。



七月八日

今日は合宿の日です、旅行バスで唐津湊へ行きました、フェーリで神集島に渡りました。合宿所は山之上に建てますから、歩くで 15 分ぐらいの距離がある、途中は港町の景色が見えた、綺麗でした。山を登って、

合宿所に着いた。合宿所に大きな畳部屋があります、その部屋にちょっと休憩した、ゲームをしたり、喋ったり、かき氷を食ったり、楽しかった。



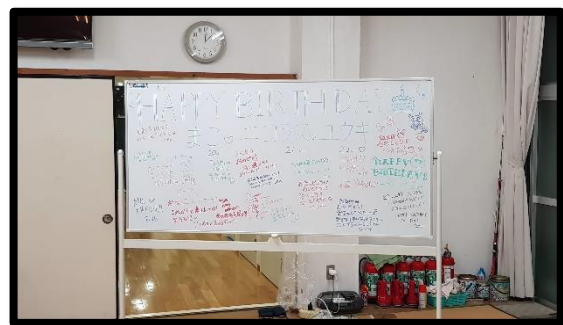
一時間のあと、魚釣りに港町に行きました。鰯がいっぱい釣られました、大体 30本を釣りました。大きなやつは合宿所に持って帰って。海風、海の薫りと夕日、最高でした。



夜に、BBQ大会が行いました。BBQ大会の前に、食材の準備はかかりました、玉ねぎを切ったり、キャベツを洗ったり、皆は一緒、一生懸命に準備しました。吉川先生は牛肉をたくさん買ったから、みんなもいっぱい食べた、神集島のおじさんたちはサザエをたくさん持ってきて、一緒に肉を焼いたり、恋バンを話したり、十分楽しいでした。七月九日は私とネコラスとマコの誕生日だから、12時に皆はサプライズをくれて、誕生日を祝いました。本当に感動しました。

七月九日

十一時から、町民たちとサヨナラしたあと、フェーリで神集島から離れました、旅行バスで唐津城に行きました。天守閣を登りたいけど、その時期の天守閣は工事中だから、入らなくて残念ですが、城から見える景色もとてもきれいでした。



夜に、ドンドン屋に行きました、この店は佐賀大の隣です、佐賀大の皆はよく行くのことがあります。ドンドン屋の料理はおいしい、格安です。皆はもう一回私とネコラスとマコの誕生日を祝いました、今回は大きなケーキがあった、楽しかったです。

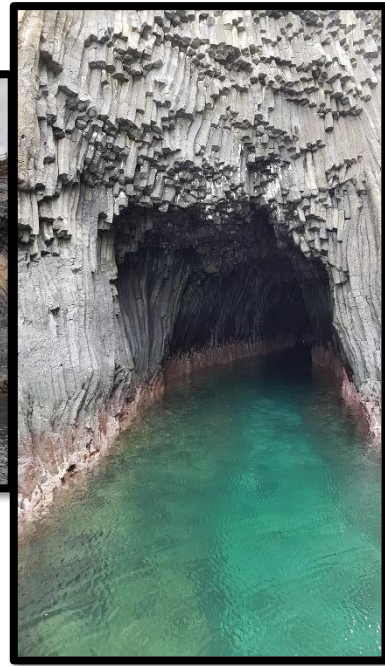


七月十日

今日は自由研究の日、しかし、私の組はこの日に調査のこと何にもしませんでした。チャンスににぎってこそ、佐賀大の友達と観光しに行きました。文香とマヨに感謝の気持ちをもう一回伝いたい、二人は今日の行程を計画した。観光スポットは遠くてばらばらですから、交通のことは難しい。ふたりはお疲れ様でした。



朝から、JRで唐津駅へ行きました、あとはバスで呼子に行きました。呼子は漁港です。大きな魚市場がある。昼ご飯は呼子に食べた、名物のイカ活き造りを食べた、もと、いかしゅうまいとイカ为天ぷらはたべた、本当にうまがった。特別のところ、いかの身体は刺身で食べたあと、残りの背や、下足は天ぷらに作られゆく。ちょっと塩をかけて、鮮やかな海の味です。豊富なめしを食べたあと、遊覧船で呼子の名勝七ツ釜を見に行きました。国の天然記念物にも指定されている七ツ釜は、玄武岩がその波の荒々しさと知られる玄界灘の荒波にさらされ浸食されてできた景勝地です。断崖は深くえぐられ、その名の通り7つの洞窟が並列し、自然の驚異を感じさせてくれます。その遊覧船は一つの洞窟に入った、上に見上げて、満天は六角の玄武岩です、神秘でした。



遊覧船は呼子大橋のしたを通過した、呼子大橋は設計の上に受賞した橋です。加部島住民の交通事情の改善及び、本土からの水道パイプライン併設による農業用水の安定供給の向上を目的として、佐賀県農林部が農林水産省補助事業として計画し、建設された。

そのあとは、タクシーで浜浦野棚田にいきました、七月の棚田に張られた水がありませんけど、間違いなく、絶景です。展望台で写真を撮りっぱい撮りました。いろいろなポーズを撮りました。しかし、時間の関係だから、ちょっと残念です、夕日が見えません。



七月十一日

今日は武雄高校に香港のプレゼンテーションをなっていました。朝、先に祐徳稲荷神社へ行きました。祐徳稲荷神社は日本三大稲荷の一つに数えられ商売繁昌、家運繁栄、大漁満足、交通安全等種々の祈願が絶えず。御本殿、御神楽殿、樓門等総漆塗極彩色の宏壮華麗な偉容は、鎮西日光と称され。私たちは拝殿をはじめ、最高に建てられるの奥宮に登った。階段は険しい、大変けど、途中が赤い鳥居や、綺麗な摂社や末社がもとより、上の景色は絶対に美しい。



となりの町が全部見えました。天気がいいから、遠いまでもよく見えました。昼ご飯は道の駅に解決しました。私はもう一回ムシゴロのお弁当を食べた。道の駅のとなりがミニ水族館があります、水族館は鹿島海岸の海洋生態を紹介します。いい場所と思います。入場料は無料けど、内容は豊富です、活きの生物がたくさん展示されました、本物のウナギが見えました、うれしかった。

そのあと、水族館の展望台から見えて、綺麗な海岸に行きました、これは大きなスプライスです、私たちは誰も知らなかつた、観光スポットや名勝もではない道の駅の背面はそんな絶景があります。



海は凪です、波なし、水と空は同じの水色、水は空を反射してから、海と空の境界は不鮮明で見分けません。時間はあまりない、ちょっと友達と写真を撮って、もう

すぐ離れます。

あと、重点の武雄高校へ行きました、私たちは英語の授業は参加しました。

武雄高校の生徒たちと英語で話して、れんしゅうします。まずは香港のプレゼンテーションです、香港の基本情報やいう言葉や文化など英語で紹介しました。次、スモールなグループを入れて、各人は英語で自分を紹介しました、好きな食べ物とか夢とかです、高校生と交流できて、嬉しかった。二節の授業に参加しました。授業の後、先の生徒たちは私たちを連れてくれて学校を参観しました。

七月十二日

朝、佐賀大に日本語語学の授業を出席して、日本の大学生活を体験しました。授業に受身形を勉強しました。

次は、佐賀大に異文化のコースを参観しました。コースにもう一回香港のプレゼンテーションをした。コースにいろいろな人がいます、アメリカン人やベトナム人など。プレゼンテーションのあと、ミニのグループになって、さまざまなことを話した、日本語を勉強する理由とか、日本で暮らす経験とか。

あとは、カリとマヨは私たちをポカポカ温泉に連れて行きました、それは佐賀市内一番大きな温泉、気持ちよかった。

七月十三日

今日は自主研究発表の日、私と鈴の研究テーマは佐賀の祭り。佐賀の独特な祭りを研究しました。十一月のバルーンフェスタとか、祇園祭とか。発表は順調でした、楽しかった。



今日は最後の日だから、みんなの気分も悲しそう。自主研究発表のあとは修了式。香港の分も数え上げたら、22日にずっと一緒にいます。みんなはプログラムの感想を発表した、話してる時はみんなも涙が流れました。きっとまだ会えます。

送別会の前はまだ最後の時間がありますから、思い出を作ろうと思った。ホテルで自転車を借りて、佐賀市内散策した。送別会は県庁のレストラン MEI に行きました。料理は美しくて美味しいでした、県庁は佐賀市内一番高いビルだから、夕日の景色を伴って、最高のエンドでした。

Short Summary

In Feb, 10 students from Saga University came to Hong Kong for a short-term exchange. I was a student ambassador to stay with them. In that 10 days, we became friend and make me deeply interested in Japanese culture and living, so I decided to go to saga. Meeting my friends and experience their lives in Saga, not only University lives, also their entertainments and usual lives.

We departed from HKG on July 5th and arrived at Fukuoka in twenty-one o'clock, Mr. Yoshigawa came to welcome us and brought us to hotel.

In the next day, Mako Mayo Kari and Suzuka met us at hotel, a reunion after 5 months made us screamed and hugged each other. We went to Saga University and joined the open ceremony, we finally met all our friends. They held a welcome party for us, a lot of Japanese local food and beverage.

On July 6th. we went to Arita to visit the Art and Pottery department of Saga University. The Principal brought us to walk around the campus, and explained the usages of different classroom. And then we tried to paint on a Arita pottery, it is difficult since the plate is curved and we were using Chinese crush to paint. I drew a kumamon on my plate.

On 7th, all of us, 18 people went to an island for Gashuku. The boardinghouse locates at the peak of the island, the building in new and well-equipped. At the night, we had slept in a big room which the floor is cover by Tatami.

We went to fishing on the pier, we got a lot of Aji and we brought them back and let them join our BBQ party.

On July 8th, we left the island and went to visit the Karatsu Castle

On July 9th, today is free time. Ayaka and Mayo brought us to Yobuko to taste Ika Japanese cuisine and watch costal erosion spot Nanatsukama, after that we went to Hamaurano to visit the famous terrace farm. This is the best day in this trip

On July 10th, we went to the Inari shrine and then Takeo high school to join an English lesson, in the lesson, we did a presentation about Hong Kong such as the food culture, languages and political situation etc. after presentation, we formed small groups with the students and chatted with them in English

On July 11th, we sit a Japanese Language Lesson in Saga University, after that we joined a lesson about various culture, during the class, we met with students from different country who came to japan to study.

On July 12th, we had done a presentation on our own study topic, my group's topic is unique festival in Saga. I think we did a good-job on the topic, after that was the closing ceremony of this program, this was a crying section. At night, they held a farewell party for us. And the time for us to say goodbye to each other has come.